

主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業(B)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

黒河・中老田遺跡発掘調査報告

2002年2月

小杉町教育委員会

卷頭図版



遺跡全景（南から）



縄文時代の石器（左上：石皿、右上：石棒、左下：耳飾、中央・右下：磨製石斧）

序

小杉町は富山県のほぼ中央にあって、南部には標高117mの高津峰山を主峰とするなだらかな丘陵地帯が位置し北に向かって8km程続き、その北部には広大な射水平野の田園地帯が開ける緑豊かな町であります。

この射水平野は海であったところが、海の水位の低下とともに陸地化し、北側には放生津潟が形成されました。その後、先人達は低湿地であったこの地を鍛冶川や下条川などの氾濫や干害といった水との闘いを乗り越えながら、現在にみる実り豊かな田園地帯へと変えました。

このたびの調査は、主要地方道小杉婦中線改良事業に先立ち実施いたしました。

今回の調査では、縄文時代と古代から近世にいたる流路と、縄文時代の人々の漁労生活を示す遺物が発見され、人々が当時の低湿地で、どのように暮らしをたてていたのかを知るきっかけとなりました。

本書はこうした埋蔵文化財調査の成果をまとめたものであり、今後の調査研究を進めるうえで参考にして頂きますとともに、埋蔵文化財のご理解に役立てていただければ幸いと思います。

終わりに、調査にご協力いただきました方々はじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成14年2月

小杉町教育委員会

教育長 稲葉茂樹

例　　言

1. 本書は富山県射水郡小杉町黒河地内に所在する黒河・中老田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は主要地方道小杉福中線臨時道路交付金事業(B)にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
3. 調査は小杉町教育委員会の指導のもとに、山武考古学研究所が行った。
4. 調査期間、面積は以下のとおりである。

- | | | | | |
|-------|--|--------|---------------------|------------|
| 試掘調査 | 平成11年7月21日～11月16日 | 発掘調査面積 | 157m ² | (延べ 9日間) |
| 本 調 査 | 平成13年7月2日～11月26日 | 発掘調査面積 | 2,500m ² | (延べ 110日間) |
| 5. | 調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長 御後庄司が総括し、調査事務を生涯学習課長補佐 高橋登が担当した。 | | | |
| 6. | 調査担当者は以下のとおりである。 | | | |

- | | | |
|-------|--|----------------|
| 試掘調査 | 小杉町教育委員会主事 | 橋垣尚美 |
| 本 調 査 | 山武考古学研究所 | 小村正之・有山洋世・戸嶋明生 |
| 整理調査 | 山武考古学研究所 | 小村正之・土生朗治・根本時子 |
| 7. | 本書の編集は山武考古学研究所が行った。 | |
| 8. | 本書の執筆はI-1が小杉町教育委員会、I-2以降は小村正之、土生朗治が行った。 | |
| 9. | 出土遺物および記録資料は、小杉町教育委員会で保管している。 | |
| 10. | 発掘調査において下記の諸氏・諸機関にご指導、ご協力を賜った。記して感謝の意を表すものである。 | |

- | | | | | | |
|----------------|-----------------------------|--------|------------|---------|---------|
| 小島俊彰 | 池野正男 | 齊藤 隆 | 富山県高岡土木事務所 | 富山県立図書館 | 小杉町立図書館 |
| 脚小杉町シルバー人材センター | (㈲)新成田総合社 | ㈱東日本重機 | | | |
| ㈱日本テクニカルセンター | 射水施設工業㈱ | | | | |
| 11. | 現場作業員・整理作業員は下記の通りである。(五十音順) | | | | |
- 阿尾宗一郎 安倍信子 芦井美子 石黒久仁子 石坂なみ子 石橋いみ子 伊勢富夫 石瀬幸枝
猪島エミ子 今井紀美子 江口弘子 遠藤恵子 奥井清好 紣谷進 片岡美和子 北角か志ん 木下茂
工藤常雄 黒田三郎 小坂文子 沢田美紀代 末廣弘子 鈴木とし子 砂原ヨキイ 高沢笑子 高橋八智子
田口清一 田口るみ子 長井禪子 長面富美子 西野浪子 新田近 温井正明 長谷川つじ 林敏夫
林えみ子 舟坂千恵子 朴木進壽 堀川敏夫 本田利子 松岡玲子 松田八代枝 松林敦子 三上正夫
南淳行 宮林正弘 村田長三 山崎晃樹 山本君江 吉井成美 渡辺智恵

凡　　例

1. 1章の2遺跡の位置と環境で使用した地図・写真については下記の通りである。

- 第1図 小杉町1/10,000小杉町全図（其1）
- 第2図 国土地理院発行1/25,000 地形図「高岡・富山」
- 第3図 小杉町発行1/2,500小杉町基本図（38-4）
- 第4図 国土地理院発行1/25,000 地形図「高岡・富山」
- 第5図 「射水郡黒川村絵図」江戸時代 富山県立図書館所蔵
- 第6図 「射水平野河川・用水絵図」鷲塚区長篠筈藏 小杉町立図書館提供
- 第7図 明治43年陸地測量部測量1/25,000迅速図「呉羽村」を1/10,000に拡大使用
- 第8図 小杉町教育委員会作成の試掘図面に加筆修正
- 第9図 小杉町1/10,000小杉町全図（其1）

2. 位置図、地形図及び遺構実測図中の方位は全て座標北を示す。

3. 本遺跡のグリッドは国家座標第Ⅴ区を用いて2m毎に設定している。

4. 本書の挿図の縮尺は、下記の通りである。

全　測　図 1/250

遺構実測図 土坑 1/40 溝の平面図 1/120・1/80、土層 1/80・1/40。

遺物実測図 土器 1/4 石製品 1/4 土製品 1/4 石礫・耳栓 1/2 木製品 1/6

5. 遺物写真的縮尺は原則として1/3、石礫は1/1、木製品は1/3と1/5である。

6. 本文中で使用した遺構の略記号については以下の通りである。

上坑→SK 溝→SD 黒河・中老田遺跡→KNOD

7. 整理作業時に以下の遺構について種別記号の変更が生じた。（訂正前→訂正後）

SG 1→SD 1 SG 2→SD 2 SG 3→SD 3

SG 4→SD 4 SG 5→SD 5 SG 6→SD 6



軸(サビ軸・鉛軸)



鉄軸(黒色)



軸(赤褐色)、赤彩



石器の断面



須恵器・珠洲の断面

目 次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

| | |
|--------------|----|
| Iはじめに | 1 |
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 遺跡の位置と環境 | 3 |
| (1) 位置と自然環境 | 3 |
| (2) 歴史的環境 | 7 |
| (3) 遺跡の立地と地形 | 9 |
| 3 試掘調査 | 11 |
| 4 調査の方法と経過 | 13 |
| (1) 発掘調査の方法 | 13 |
| (2) 整理調査の方法 | 13 |
| (3) 調査の経過 | 14 |
| II 遺構と遺物 | 19 |
| 1 基本層序 | 19 |
| 2 縄文時代 | 21 |
| (1) 遺構 | 21 |
| (2) 遺物 | 21 |
| 3 古代 | 35 |
| (1) 遺構 | 35 |
| (2) 遺物 | 35 |
| 4 中・近世 | 41 |
| (1) 遺構 | 41 |
| (2) 遺物 | 42 |
| IIIまとめ | 53 |
| 1 縄文時代 | 53 |
| (1) 遺構 | 53 |
| (2) 遺物 | 53 |
| 2 古代 | 55 |
| (1) 遺構 | 55 |
| (2) 遺物 | 55 |
| 3 中・近世 | 55 |
| (1) 遺構 | 55 |
| (2) 遺物 | 55 |

写真図版

抄録

挿図目次

| | | |
|------|---------------------------------------|----|
| 第1図 | 主要地方道小杉辺中線および町道東老田高岡線路線予定図 (1/10,000) | 1 |
| 第2図 | 遺跡の位置図 (1/25,000) | 2 |
| 第3図 | 遺跡の調査区域図 (1/2,500) | 2 |
| 第4図 | 遺跡の位置と周辺遺跡 (1/25,000) | 4 |
| 第5図 | 射水郡黒川村絵図 | 8 |
| 第6図 | 射水平野河川・用水絵図 | 8 |
| 第7図 | 遺跡の位置図 (1/10,000) | 9 |
| 第8図 | 試掘トレンチ (1/1,250) | 10 |
| 第9図 | 遺跡調査区城と道路改良予定区 (1/10,000) | 10 |
| 第10図 | 試掘調査出土遺物 | 11 |
| 第11図 | グリッド設定図 | 12 |
| 第12図 | 黒河・中老田遺跡全作図 | 17 |
| 第13図 | 黒河・中老田遺跡基本土層図 | 19 |
| 第14図 | 第2面(縄文時代面) 遺構分布図 | 20 |
| 第15図 | 黒河・中老田遺跡縄文時代遺物包含層遺物分布平面図 | 23 |
| 第16図 | SD3・SK7・8 | 25 |
| 第17図 | SD3出土遺物実測図(1) | 27 |
| 第18図 | SD3出土遺物実測図(2) | 28 |
| 第19図 | SD3出土遺物実測図(3) | 29 |
| 第20図 | SD3出土遺物実測図(4) | 30 |
| 第21図 | SD3出土遺物実測図(5) | 31 |
| 第22図 | SD3出土遺物実測図(6) | 32 |
| 第23図 | SD3出土遺物実測図(7) | 33 |
| 第24図 | SD3(8)・SK7・包含層(Ⅲ層)出土遺物実測図 | 34 |
| 第25図 | 第1面(古代～中・近世) 遺構分布図 | 36 |
| 第26図 | SD2 | 37 |
| 第27図 | SD2出土遺物実測図 | 39 |
| 第28図 | SD2出土木製品実測図 | 40 |
| 第29図 | 黒河・中老田遺跡古代～中・近世遺物包含層遺物分布平面図 | 43 |
| 第30図 | SD1 | 45 |
| 第31図 | SD6 | 46 |
| 第32図 | SD4 | 47 |
| 第33図 | SD5 | 49 |
| 第34図 | SD1・4・5・包含層(Ⅱ層)出土遺物実測図(1) | 51 |
| 第35図 | 包含層(Ⅱ層)出土遺物実測図(2) | 52 |
| 第36図 | SD3出土遺物の概要 | 54 |

表 目 次

| | |
|------------------------------|----|
| 表 1 遗跡一覧表(1) | 5 |
| 表 2 遺跡一覧表(2) | 6 |
| 表 3 試掘調査出土遺物観察表 | 11 |
| 表 4 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(1) | 57 |
| 表 5 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(2) | 58 |
| 表 6 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(3) | 59 |
| 表 7 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(4) | 60 |
| 表 8 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(5) | 61 |
| 表 9 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(6) | 62 |
| 表10 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(7) | 63 |
| 表11 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(8) | 64 |

写真目次

| | | | |
|-------|-------------|----------------------------------|----------------|
| 図版 1 | 調査前 | 1. 調査前近景（北から） | 2. 調査前近景（南西から） |
| 図版 2 | 試掘調査 | 1. 試掘調査状況（東から） | 2. 試掘調査出土遺物 |
| 図版 3 | 全景（縄文時代） | 1. 縄文時代遺構完掘全景（上が北） | |
| 図版 4 | 遺構（縄文時代） | 1. SD3（北から） | 2. SD3（南西から） |
| 図版 5 | 遺構（縄文時代） | 1. SD3土層（南から） 2・3・4・5. SD3遺物出土状況 | |
| 図版 6 | 遺構（縄文時代） | 1. SK7（西から） | 2. SK8（南から） |
| 図版 7 | 全景（古代～中・近世） | 1. 古代～中・近世遺構完掘全景（上が北） | |
| 図版 8 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD1（北西から） | 2. SD1上層（西から） |
| 図版 9 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD2（東から） | 2. SD2（西から） |
| 図版 10 | 遺構（古代～中・近世） | 1・2. SD2上層（東から） | |
| 図版 11 | 遺構（古代～中・近世） | 1・2・3・4. SD2遺物出土状況 | |
| 図版 12 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD4（北東から） | 2. SD4（南西から） |
| 図版 13 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD4土層（南から） | 2. SD4遺物出土状況 |
| 図版 14 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD5（北から） | 2. SD5土層（西から） |
| 図版 15 | 遺構（古代～中・近世） | 1. SD6（北から） | 2. SD6土層（東から） |
| 図版 16 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(1) | |
| 図版 17 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(2) | |
| 図版 18 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(3) | |
| 図版 19 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(4) | |
| 図版 20 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(5) | |
| 図版 21 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(6) | |
| 図版 22 | 遺物（縄文時代） | SD3出土遺物(7) | |
| 図版 23 | 遺物（縄文時代） | SD3・SK7・包含層（Ⅲ層）出土遺物 | |
| 図版 24 | 遺物（古代～中・近世） | SD2出土遺物 | |
| 図版 25 | 遺物（古代～中・近世） | SD1・4・5・包含層（Ⅱ層）出土遺物 | |
| 図版 26 | 遺物（古代～中・近世） | 包含層（Ⅱ層）出土遺物 | |
| 図版 27 | 遺物（古代～中・近世） | SD2・4出土木製品 | |

I はじめに

1 調査に至る経緯

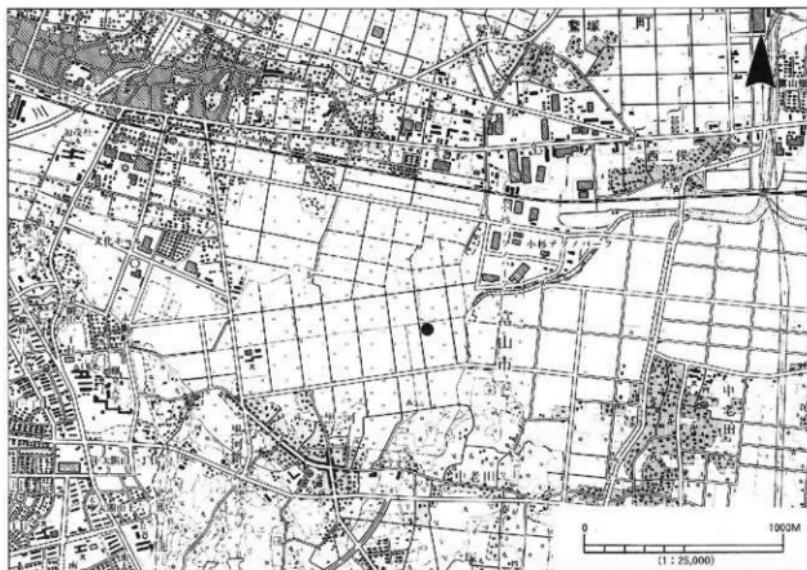
黒河・中老田遺跡は、主要地方道小杉婦中線道路整備事業に伴い発掘調査が行われた。主要地方道小杉婦中線道路整備事業とは、昭和41年4月8日都市計画決定された都市計画道路七美・太閤山線の北部線から富山戸出小矢部線までの区間2.1kmの整備事業をさす。今回の工事対象区間は第1期整備区間である町道東老田高岡線から富山戸出小矢部線までの1.0kmで、伏木富山港及び国道8号線と北陸自動車道小杉ICを直結する南北の主要幹線となり、平成8年度より着手し、平成15年度完成予定である。

小杉町では、高岡土木事務所の依頼により平成10年11月13日に分布調査を行い、全区間試掘調査の必要があることを確認した。そして、平成11年7月から11月に試掘調査を行った結果黒河尺目遺跡9,310m²、黒河・中老田遺跡および針原西遺跡について9,650m²の本調査、未買収地については試掘調査の必要があると判断した。

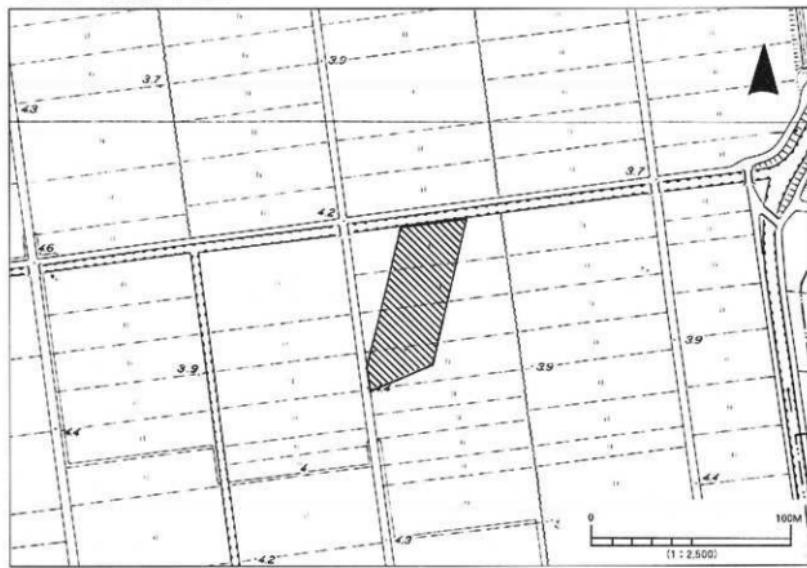
試掘調査の中間報告の段階で、高岡土木事務所から平成12年度の本調査依頼の打診があったが、既に小杉町では町道東老田高岡線（主要地方道小杉婦中線道路整備事業第1期整備区間との交差点部分）の本調査が予定されていたため、同年9月に町教育委員会・町都市建設課・高岡土木事務所・県文化財課による協議の結果、富山県文化振興財団により本調査が行われることとなった。しかし、平成12年8月に13年度以降の本調査については富山県文化振興財団で対応できない旨が伝えられたため、小杉町では民間発掘機間に調査委託することとした。



第1図 -----主要地方道小杉婦中線および町道東老田高岡線路線予定図



第2図 ●遺跡の位置図



第3図 ■遺跡の調査区域図

2 遺跡の位置と環境

(1) 位置と自然環境

黒河・中老田遺跡が所在する小杉町は、富山県のはば中央部に位置し、東は富山市、南は福岡町・砺波市、高岡市・西は大門町・大島町、北は新湊市・下村に隣接している。小杉町域は南北に細長い楕円形を呈し、東西約5km、南北約12kmで総面積41.22km²である。遺跡は射水平野の南端に位置し、JR小杉駅から南東へ約2km、北陸自動車道小杉ICから北東へ約3.5kmにある。遺跡の調査前の現況は標高約4m、周辺は水田地帯である。本町は、古代より陸海運の要衝として重要視され、現在では小杉インターチェンジと富山新港を結ぶ産業道路沿いに流通業務団地や工業団地が造成され、日本海地域における流通の拠点となっている。また本町は、富山・高岡両市と至近距離にあり、交通の便にも恵まれていることから、太閤山ニュータウン等の住宅団地の造成が行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は3万2千人余りである。

小杉町の地形は、南部の射水丘陵と北部の射水平野から形成され、その比率はおよそ4:6である。標高は最高位が南端の字野手付近で140.2mである。

富山県の中央には県を東西に二分する呉羽山丘陵があり、その南西部から西に向かって射水丘陵が伸びている。丘陵の地質は、新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、その上層には疊と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積する。丘陵は標高20~100m前後の緩慢な斜面である。鍛冶川・下条川やその支流によって樹枝状に刻まれ、谷間には池・堤・堰などとよばれる農業用水が点在している。

遺跡の立地する射水平野は、東の神通川と西の庄川にはさまれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。繩文時代前期に発生した繩文海進の頃、射水平野の大半にあたる海拔5m付近までが海中に没し、その後の気温低下に伴う海退の結果、放生津潟の周辺に湿原が現れた。平野部の標高は、放生津潟の水面とさほど差がないため、川の流れが平野部で濁み、不湖(フゴ)・瀧(アラワ)とよばれる沼沢地を形成した。湿原の植物が枯れても泥炭が堆積し、現在の射水平野が形成された。その後、放生津潟は埋め立てられ、現在の富山新港になった。

小杉町及びその縁辺部では、町の中心部に下条川、町域東側縁辺部付近に鍛冶川、西側縁辺部付近に和田川およびその支流である神楽川が流れている。いずれの川も、丘陵部の南側に端を発し、丘陵部を樹枝状に刻みながら北流し、幾つかの支流を合わせながら平野部を通り富山湾へ注ぐ。今回の調査に係る鍛冶川は、丘陵部の奥まった富山市三ノ熊の谷間に水源としている。これらの川は標高の低い丘陵を水源とするため、さほど急流ではなく通常の水量も多くはない。





第4図 遺跡の位置と周辺遺跡

表1 遺跡一覧表(1)

| 台帳番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 備考 |
|--------|----------------|--------|--------------|------------------------------|
| 381002 | 愛宕遺跡 | 散布地 | 古代 | 昭和62・平成9年発掘調査 |
| 381003 | HS-03遺跡 | タ | 不明 | 一部愛宕遺跡と重複 |
| 381004 | IIS-04遺跡 | 集落 | 縄・弥・古・古代・中・近 | 平成8・9年発掘調査 |
| 381005 | 大江南遺跡 | 散布地 | 奈良・平安・中世 | 昭和62年試掘調査 |
| 381006 | 白石遺跡 | 散布地・集落 | 縄・弥・古・古代・中・近 | 平成3・4年発掘調査 |
| 381007 | 白石II遺跡 | 散布地 | 不明 | |
| 381008 | 白石III遺跡 | タ | タ | |
| 381009 | IIS-04東遺跡 | タ | タ | |
| 381010 | 鶯塚村中遺跡 | タ | 弥・中 | 平成5年発掘調査 |
| 381011 | 蟹塚遺跡 | タ | 弥生 | |
| 381012 | 戸被若宮遺跡 | タ | 縄・弥・奈・平・中・近 | 平成3年発掘調査 |
| 381013 | 三ヶI遺跡 | タ | 不明 | 昭和62年試掘調査 |
| 381014 | 白石IV遺跡 | タ | 中世 | |
| 381017 | 三ヶ本中町遺跡 | タ | タ | |
| 381018 | 田町遺跡 | タ | 不明 | |
| 381019 | 小杉焼窯跡 | 窯 | 近世 | |
| 381020 | 高寺遺跡 | 散布地 | 弥生 | 平成9年発掘調査 |
| 381021 | 十社宮遺跡 | タ | 古代 | |
| 381023 | 小杉燒窯跡 | 窯 | 近世 | |
| 381024 | 高橋町遺跡 | 散布地 | 不明 | |
| 381025 | 針原東遺跡 | 集落・散布地 | 縄・弥・古代・奈・平・中 | 平成2～4年発掘調査 |
| 381028 | 加茂社遺跡 | 散布地 | 古代？ | 平成5・8年試掘調査 |
| 381029 | 若瀬町遺跡 | タ | 不明 | |
| 381030 | 針原西遺跡 | タ | 弥・古・奈 | |
| 381032 | 小杉燒窯跡 | 窯 | 近世 | |
| 381033 | 中山北八遺跡 | 散布地 | 古 | |
| 381034 | 中山北B遺跡 | タ | 不明 | |
| 381035 | 中山中遺跡 | タ | 旧・縄・弥・古・奈 | 平成2年発掘調査 |
| 381036 | 中山南遺跡 | 集落 | 古 | 昭和50年県指定史跡、昭和38～43年発掘調査 |
| 381037 | 二ヶ山古墳群 | 古墳 | 古 | 5基以上。昭和62年試掘調査 |
| 381038 | 三谷遺跡 | 散布地 | 旧・弥・古・奈・中 | 昭和63年発掘調査 |
| 381039 | 一ヶ山古墳群 | 墓・古墳 | 弥・古・奈 | 昭和63年発掘調査、平成9年試掘調査 |
| 381040 | 黒河西I遺跡 | 散布地・製鉄 | 古代・奈・平・近 | |
| 381041 | 黒河西山遺跡 | タ | タ | 昭和62・63年発掘調査 |
| 381042 | 黒河遺跡 | 散布地 | | |
| 381043 | 黒河・中老山遺跡 | 集落・散布地 | 縄・奈・平・中・近 | 平成12・13年発掘調査 |
| 381044 | 黒河尺日遺跡 | 集落 | 旧・縄・奈・平・中・近 | 昭和61・62・平成2・3・12・13年発掘調査 |
| 381045 | 塙越II坪遺跡 | 散布地・製鉄 | 縄・奈・平・中・近 | 昭和62・63・平成2・3・試掘調査、平成11年発掘調査 |
| 381046 | 畠越No.15遺跡 | 散布地 | 奈・平・中 | 平成11年発掘調査 |
| 381047 | 畠越No.16遺跡 | タ | 不明 | |
| 381048 | 黒河西三十三塚 | その他 | 近世 | |
| 381049 | 畠越No.17遺跡 | 散布地 | 奈・平・中 | |
| 381054 | 太閤山ランド内No.28遺跡 | 製鉄 | 古代 | |
| 381058 | 太閤山遺跡 | 散布地 | 縄 | |
| 381059 | 大開遺跡 | タ | 縄 | 昭和48年発掘調査 |
| 381060 | 大開南B遺跡 | 製鉄 | 古・奈・平 | 昭和48年発掘調査、公園として整備 |

表2 遺跡一覧表(2)

| 台帳番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 備考 |
|--------|----------------|--------|------------|------------------------|
| 381061 | 大隅南A遺跡 | 散布地? | 奈 | |
| 381062 | 黒河西山B遺跡 | 製鉄 | 古代 | 平成2年一部試掘調査 |
| 381063 | 黒河西山C遺跡 | 不明 | 不明 | |
| 381064 | 黒河西山D遺跡 | + | + | |
| 381065 | 黒河竹山遺跡 | 散布地 | 縄・奈・平 | 昭和62・63・平成3・9年一部試掘調査 |
| 381066 | 黒河新遺跡 | + | + | |
| 381067 | 黒河南遺跡 | + | 不明 | |
| 381068 | 黒川尾日西遺跡 | + | 奈・平・中 | 昭和63・平成元・3年一部試掘調査 |
| 381069 | 黒河西山西遺跡 | + | 不明 | |
| 381070 | 高山遺跡 | 散布地・製鉄 | 旧・平 | 昭和54年発掘調査 |
| 381071 | 鬼沢池遺跡 | 製鉄 | 古代 | |
| 381072 | 東山I遺跡 | + | 奈 | 昭和55年発掘調査 |
| 381073 | 東山II遺跡 | 散布地・製鉄 | 縄・古・奈 | 昭和54・57年発掘調査 |
| 381074 | 太閤山ランド内No.7遺跡 | 散布地 | 古代 | 平成8年発掘調査 |
| 381075 | 太閤山ランド内No.8遺跡 | + | + | 平成3年試掘調査 |
| 381076 | 表野遺跡 | 集落・製鉄 | 旧・縄・奈 | 昭和54年発掘調査、平成3・5年試掘調査 |
| 381077 | 塙越大沢II遺跡 | 散布地 | 奈・平 | 昭和62・63・平成9年一部試掘調査 |
| 381078 | 塙越大沢遺跡 | 製鉄 | + | 昭和62・平成2年一部試掘調査 |
| 381079 | 塙越A遺跡 | + | 縄・奈 | 平成3年発掘調査、平成9年試掘調査 |
| 381080 | 塙越No.20遺跡 | 散布地 | 縄・奈・平 | 平成3年試掘調査 |
| 381081 | 塙越B遺跡 | 製鉄 | 奈・平・中 | 平成8年試掘調査 |
| 381082 | 塙越No.22遺跡 | 散布地 | 奈・平 | |
| 381083 | 塙越No.23遺跡 | + | + | |
| 381084 | 塙越No.24遺跡 | + | 縄・奈・平 | |
| 381112 | 新造池西遺跡 | + | 縄 | |
| 381113 | 塙越No.5遺跡 | + | 古代 | |
| 381114 | 太閤山ランド内No.4遺跡 | 散布地・製鉄 | + | |
| 381115 | 太閤山ランド内No.9遺跡 | 散布地 | 不明 | |
| 381116 | 太閤山ランド内No.14遺跡 | + | 古代 | |
| 381119 | 上野赤坂A遺跡 | 製鉄 | 奈・平 | |
| 381120 | 太閤山ランド内No.15遺跡 | 散布地・製鉄 | 縄・古代 | |
| 381121 | 新造池B遺跡 | 縄・製鉄 | 古代 | |
| 381122 | 新造池A遺跡 | 散布地・集落 | 旧・縄・奈 | 昭和57年発掘調査 |
| 381123 | 太閤山ランド内No.53遺跡 | 製鉄 | 古代 | |
| 381127 | 石太庫I遺跡 | 縄・製鉄 | 奈 | |
| 381129 | 太閤山ランド内No.6遺跡 | 宮・製鉄 | 古代 | 平成3年試掘調査 |
| 381130 | 太閤山ランド内No.12遺跡 | 散布地 | 古代・奈・平 | 平成3年試掘調査 |
| 381131 | 石太郎I遺跡 | 製鉄 | 奈 | 平成3年発掘調査 |
| 381132 | 土代A遺跡 | 散布地・製鉄 | 旧・縄・古代・奈・平 | 昭和56年試掘調査 |
| 381133 | 石太郎A遺跡 | 散布地 | 旧・縄 | 昭和56年試掘調査 |
| 381134 | 石太郎出遺跡 | 製鉄 | 古代 | ランド内No.17遺跡含む、平成2年試掘調査 |
| 381137 | 石太郎C遺跡 | 散布地・製鉄 | 旧・奈 | 昭和56年発掘調査 |
| 381138 | 石太郎正遺跡 | 散布地 | 不明 | 昭和56年発掘調査 |
| 381139 | 太閤山ランド内No.19遺跡 | 不明 | + | 昭和60年発掘調査 |
| 381140 | 土代遺跡 | 散布地 | 縄 | 昭和55年発掘調査 |
| 381141 | 太閤山ランド内No.26遺跡 | 散布地・製鉄 | 旧・縄・奈・平 | |

(2) 歴史的環境

黒河・中老田遺跡周辺には多くの遺跡が確認されているが、大半が射水丘陵に存在しており、県下でも有数の遺跡集中地域である。時代も旧石器から近世に至るまで、遺跡の種類も集落や生産遺跡、墳墓等多岐にわたる。特に太閤山ランド内遺跡群や小杉流通業務団地内遺跡群、さらに周辺のゴルフ場等の人規模開発に伴う各遺跡群の発掘調査の結果、奈良～平安時代の射水丘陵は、須恵器と鉄・炭の一大生産基地であったことが明らかになった。これらの成果は、関連する報告書が多く出されているのでそれらを参照されたい。また遺跡の分布については、「富山県埋蔵文化財包蔵地地図」(富山県埋蔵文化財センター1993)に掲載されているので参照されたい。ここでは各時代別に周辺の遺跡、特に射水平野における遺跡について概観してみたい。

まず旧石器時代であるが、小杉町域では、現在20か所の散布地が確認されている。いずれも丘陵地帯に所在しており、新造池A遺跡(381122)では、1万8千から1万5千年前のナイフ型石器や局部磨製石斧と原石や石屑等石器製作の痕跡を示す遺物が出土している。他に南側に隣接する黒河尺口遺跡(381044)、表野遺跡(381076)でも旧石器時代の遺物が採集されている。

縄文時代は、早期では町内で最古の押型土器が出土した椎土遺跡と早中期の土器が出土した南太閤山I遺跡の2か所が確認されている。縄文海進のピークを迎えた前期は、中山中遺跡(381035)をはじめとして標高5mラインより上に遺跡が所在する。中期は本町の縄文時代の遺跡中、最も多く確認されている。中期は前期に比べ冷涼な気候になり、射水平野の陸地化が進んだ。しかし陸地といっても湿地帯が広がっていたと考えられることから、人々が住む環境ではなかったと考えられる。遺跡の南側に隣接する塚越貝塚遺跡(381045)では平成11年度調査によって、2基の土坑と4基の小ビットが検出されており、中期前葉の新崎式期の土器や黒曜石の剥離片、磨製石斧の刃部片が出土している。西側に隣接する黒河尺口遺跡では平成12年度調査によって、土坑群や粘土採掘坑が検出されており、中期後葉串田新式期の土器や石錐・石匙・磨製石斧・打製石斧などが出土している。遺跡の北約2kmにある白石遺跡(381006)では中期後葉の串田新式から後期前葉の気屋式にかけての土器や石錐が出土しているが、住居跡や炉跡等、居住の痕跡を示す遺構は検出されていない。低湿地における漁労などの生業の場であった可能性も考えられる。晚期では、遺跡の北側約1kmにある針原東遺跡において溝の底面から晚期後葉の土器片と石器が出土している。

弥生時代は現在までのところ、中期以降の遺跡のみが確認されている。分布状況は、縄文時代までは異なり、平野部における遺跡の数の増加が顕著である。遺跡の北側約2kmにあるHS-04遺跡(381004)は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかかる月影・法仏式期の周溝を持つ建物跡と井戸が検出されている。戸破若宮遺跡(381012)では、弥生時代後期の用水路と、2段の素掘りの井戸が検出されている。遺跡の平成12年度調査では、粘土採掘土坑もしくは粘土土坑から布留系甕が出土している。

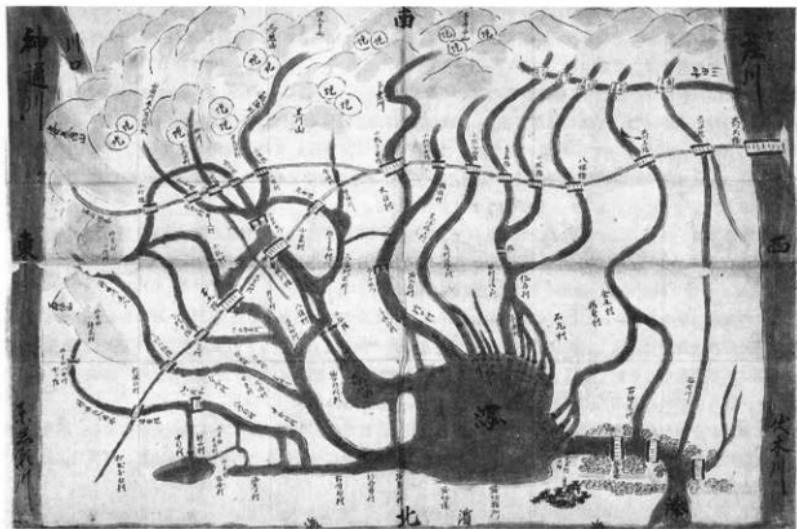
古墳時代では、呉羽丘陵から射水丘陵にかけて、富山県内でも有数の古墳密集地帯である。丘陵上には3世紀代の四隅突出型墳墓から6世紀代の群集墳まで点在している。集落その他の遺跡では、塚越貝塚遺跡と畠緑No.15遺跡からは4世紀代の土師器を伴った土坑が検出されている。

古代の遺跡は最も確認された数が多い。遺跡の平成12年度調査では須恵器の整形に用いる叩き板が出土している。黒河尺口遺跡では、掘立柱建物跡群や製鉄炉関連遺構が検出されており、技術者集団の存在が想定される。丘陵部に多く所在する製鉄・製炭・製陶関連遺跡は特徴的である。製品は射水平野の川筋を舟で放生津潟へ運び出され、さらに奈興の浦の越中國府城等に運び込まれたと考えられる。

古代末期から中世にかけて遺跡の周辺は倉垣庄となった。この時期の遺跡としては白石遺跡がある。溝を巡らせた居館跡と考えられ、掘立柱建物跡や井戸が検出され、国産陶器や青磁などの中国製陶磁器、木製日常品・仏具などが出土している。



第5図 射水郡黒川村絵図



第6図 射水平野河川・用水絵図

(3) 遺跡の立地と地形

本町付近の地形は、南部に位置する射水丘陵と北部に広がる射水平野によって構成されている。射水平野は、前述したように縄文時代前期の海進によって水没した丘陵の裾部が、海退によって低湿地化した結果成立したものである。低湿地化に伴って泥炭が堆積しながら沖積世平野を形成した。

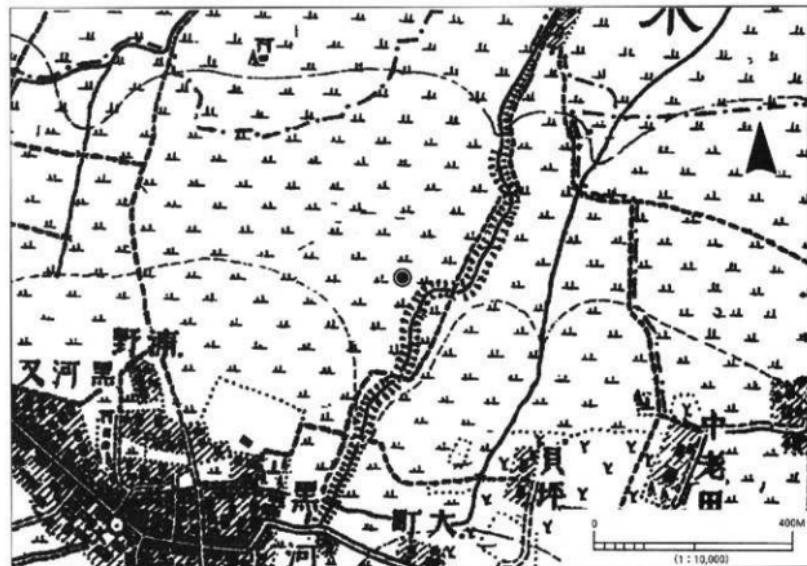
遺跡のある小杉町付近はこの沖積世平野であり、後述するように遺跡内からは、河川の流路、縄文時代中期から後期、古代から近世までの生活跡が発見されている。

縄文時代はもとより、古代から中世にかけての地形や流路については不明な点が多いが、近世の絵図をもとに周辺の状況をみていきたい。『射水平野河川・用水絵図』によれば、西の庄川から東の神通川まで平野部には約20数条の川が流下している。いずれの川も最終的には渴へと流れ込み、湊へと向かう。この渴が放生津渴であり、現在の富山新港である。

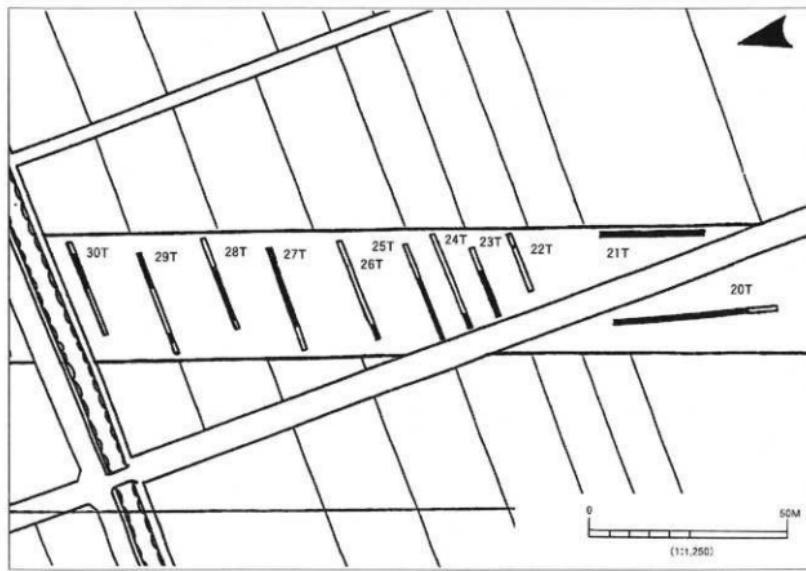
遺跡は第5図の中央左上の銀治川左岸にある中老田村の対岸、二俣橋の南方に位置している。すぐ南に黒河山の記載があるが、これが現在の太閤山カントリークラブにある高津峰山（標高116.6m）に相当すると思われる。北側には大川大橋を渡り、大江村から願海寺村を通って小竹橋に至る富山往来が描かれている。また大江村から分岐して北西の利波村へと向かう街道も記されている。

第4図は中老田村以南の小河川の状況を描いたものである。図中を横に銀治川と黒川を描いている。遺跡は図左下の中老田村よりさらに下に所在しているはずであるが、この部分の詳細な絵図が見当たらず、当時は単なる水田か若しくは湿地帯であったものと思われる。少々付加するならば、銀治川が鍵の手に大きく曲がる付近には中老田池（堤）が所在しており、周辺低地からの出水を溜めていたところであったことがわかる。また中老田村は小杉街道に沿って2集落が並び、村社鶴宮を維持する中規模な村であったことも判明する。

いずれにしても遺跡付近は水田中であり、この状態は、明治時代後半になんでも変化しなかったことが明治43年作成の迅速図によって判明する。



第7図 ◎遺跡の位置図



第8図 試掘トレンチ



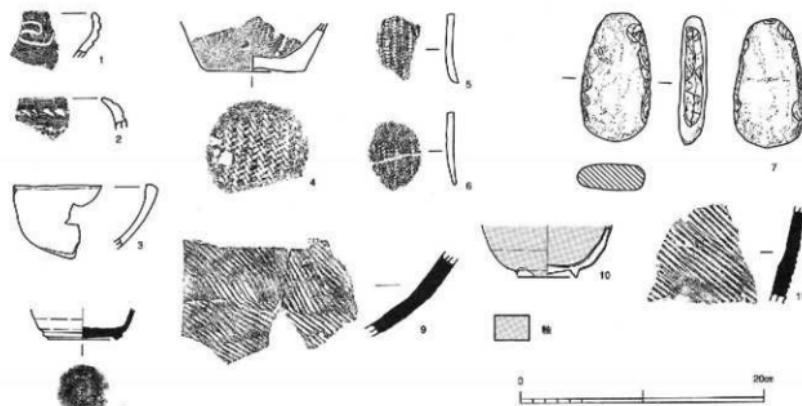
第9図 ■遺跡調査区域と道路改良予定区

3 試掘調査

黒河・中老田遺跡は主要地方道小杉崎中線道路整備事業第1期整備区間に位置していたため、平成11年7月21日から平成11年11月16日まで、延べ9日間の試掘調査を行った。試掘調査は重機により、幅1mのトレーン子を設け、その壁面を人力により精査し包含層の遺構の確認を行った。

今回発掘調査の対象となった2,500㎡には、5本のトレーン子を設定した。発掘面積は約157㎡である。調査の結果、南北に流れる大きな溝を1条確認したほか、数条の溝、土坑を確認した。遺物の多くはこの大きな溝から出土しており、縄文土器が主体であったことから、おそらく周辺に集落があるのではないかと推定されたが、調査区内の溝の両側および、周辺の試掘調査からは住居址の痕跡は認められなかった。

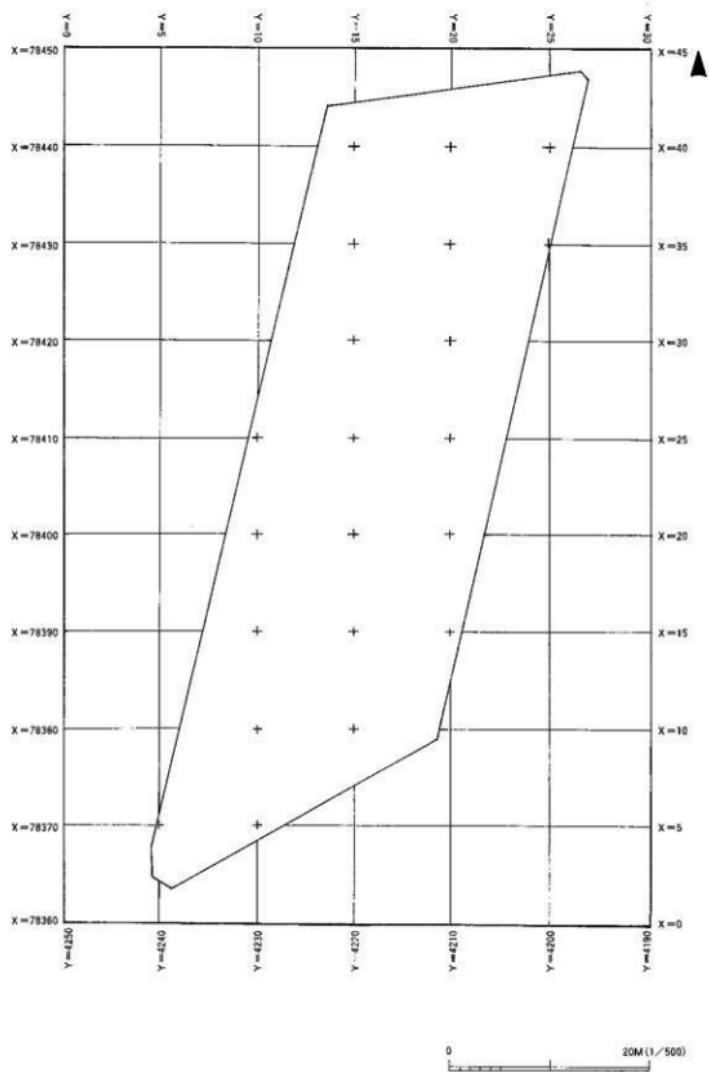
出土遺物は（第10図）1～7までが縄文時代の遺物で、1～4深鉢（1～2は気屋式）、5～6は円盤状土器製品、7は打製石斧、8～9は須恵器の杯Bと壺の胴部片、10は越中瀬戸の碗、11が珠洲の壺で、かなり時代幅があるが、縄文土器は溝から出土する場合が多く、かなり小片でローリングを受けているものが目立つ。縄文遺構の遺物は耕作土に含まれていることが多いことから当遺跡は縄文時代に属すると判断した。



第10図 試掘調査出土遺物

表3 試掘調査出土遺物観察表

| 番号 | 出土地点 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と重量) | 備考 |
|----|----------|------|-------|--------|--------|--------|------------------|-----|
| 1 | 5区23トレーン | 縄文土器 | 深鉢 | | | 14.2 | 口縁部・巴状沈縫文 | |
| 2 | 5区23トレーン | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部・連続三角彎突文2段 | |
| 3 | 5区23トレーン | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部 | |
| 4 | 5区21トレーン | 縄文土器 | 深鉢 | | 8.2 | | 底部・網代模 | |
| 5 | 5区23トレーン | 上質品 | 円盤状土器 | | | 厚0.5 | | |
| 6 | 5区23トレーン | 土質品 | 円盤状土器 | | | 厚0.5 | | |
| 7 | 5区26トレーン | 石器 | 打製石斧 | 幅5.8 | 長10.5 | 厚2.2 | 180.6g・凝灰岩 | 未製品 |
| 8 | 5区27トレーン | 須恵器 | 有台杯 | 6.6 | | | 不規・生焼け | |
| 9 | 5区26トレーン | 須恵器 | 壺 | | | | 底部 | |
| 10 | 5区27トレーン | 越中瀬戸 | 碗 | | 4.8 | | | |
| 11 | 5区21トレーン | 珠洲 | 壺 | | | | 肩部 | |



第11図 グリット設定図

4 調査の方法と経過

(1) 発掘調査の方法

発掘調査は、試掘調査の結果によって設定された調査区2,500m²を対象とした。このうち、仮設の農道と排水路を除いた2,003.07m²について本調査を行った。

表上はパワーショベルを用いて掘削し、クローラーダンプによって調査区外へ搬出した。その後、表土は新潟市の富山新港東部埋立て予定地に移送した。包含層は、スコップを用いて人力で掘削を行った。次にジョレンを用いて造構の確認をした後、移植ゴテ等を用いて造構の精査を行った。人力で掘削する時に出た堆土は、ペルトコンベアを用いて調査区外に搬出した。調査の計画段階では造構は一面にのみ存在するものと想定され、調査も一面だけを実施する予定であったが、調査中に下層から包含層と造構面が検出され、計二面の調査を行うこととなった。このうち包含層下層の掘削は、一部に硬質で厚い間層があったため、その部分については小型のパワーショベルによる機械掘削を行い、他は人力掘削とした。

調査区内のグリッドは、国家標準格査系を用いて2m間隔で設定し、10mごとに基準杭を設けた。水準杭は調査区外に2か所設けた。

調査記録は、野帳による所見の記録のほか、写真と実測図を作成した。写真は造構確認・セクション・遺物出土状況・造構掘削・調査区完掘時全景の各状況について撮影した。使用フィルムは35mm判カラーネガ・同白黒を基本として、適宜6×7判白黒を加えた。35mm判撮影時には遺跡名（略号）・造構（グリッド）名・セクション名・層位・方向・日付などの写し込みを行った。

実測図は、造構セクション・完掘平面・エレベーション・調査区壁面およびトレチの各断面について縮尺1/20で作成した。セクション図の上層説明には『新版標準土色帖』日本色研事業部発行を用い、色調・しまり・粘性等を記載した。

また、平面実測および全景写真撮影にはラジコンヘリコプターを用いた。写真は6×6判白黒で調査区全貌、斜め写真は4×5判白黒・同カラー・ネガで4方向から撮影した。平面図は航空写真を図化し、縮尺1/20、1/100で作成した。

今回の発掘調査では土量計算のため、以下の各段階において、小杉町教育委員会と富山県高岡土木事務所の立ち会いのもとで委託業務段階確認を行った。
①機械掘削前現況
②表土層機械掘削後
③包含層上層人力掘削後(X25以北)
④包含層上層人力掘削後(X25以南)
⑤第1面造構掘削後
⑥包含層下層機械掘削後
⑦包含層下層人力掘削後
⑧第2面造構掘削後。段階確認を行った後、各段階の土量計算書を作成した。

(2) 整理調査の方法

遺物整理作業は、出土した遺物を水洗することから始めた。土器・土製品は水洗後バインダー処理を行った。木製品は、乾燥を防ぐため水につけ、定期的に水を交換した。

注記はインクジェットプリンタを用いて、遺跡名（略号）・造構（グリッド）名・出土層位・出土年月日を記入した。極少の破片は、造構・グリッド・出土層位等の重要な事項から記入した。

土器の接合にはセメダインCを用い、個体の2/3程度復元できたものおよび破損の恐れがあるものについては樹脂を充填した。石器は澱粉糊を用いて接合した。

土器の実測は口径または底径が判明するもの、文様等や器形に特徴のあるものについて行い、個体によっては拓図を作成した。

遺物写真は6×7判白黒フィルムを用いて撮影した。

造構実測図は図面を修正した後に、黒入れを行った。

調査に関する遺物・図面・写真・記録等は、本報告作成後、一括して小杉町教育委員会が保管している。

(3) 調査の経過

平成13年

- 7月 上旬 2日、現地着任。事務所設置、現場内の水抜きを開始。グリッド杭を設置、写真撮影（事務所設置前、同設置後、調査区の調査前、測量杭設置状況）。3日、機材搬入、水準杭を設置。6日、仮設トイレ、現場用発電機搬入。第1回委託業務（機械掘削前高さ）段階確認。9日、残土置き場の水抜きを終了。畦畔ブロックの撤去。10日、表土掘削および排土作業を開始。
- 中旬 表土掘削および排土作業を継続。12日、本日より作業員を導入。残土搬出用の土蘿袋作り。13日、残土搬出用スロープ構築。ベルトコンベア、水中ポンプの搬入。16日、表土掘削および排出作業を終了。調査区内の排水用側溝掘削作業、事務所用発電機および扇風機の搬入、休憩用テントの設営、残土搬出用鉄板の搬入・敷設。17日、残土を新湊市海老江西町へ移送開始。調査区内の排水用側溝掘削、ベルトコンベアの配置・結線、人力掘削前の水準測量。河川跡を確認、腐植土を主体とした覆土上層から土師器・須恵器、中・近世の珠洲焼・陶器が出土。18日、第2回委託業務（機械掘削後高さ）段階確認。
- 下旬 包含層上層の人力掘削を継続。21日、残土の移送作業を終了。23日、調査区周辺の草刈り。海老江西町への残土搬出終了状況の写真撮影。水中ポンプの24時間稼働体制を開始。25日、残土搬出用鉄板撤去。26日、残土搬出用スロープの撤去。30日、包含層上層の人力掘削。X30ライン以北を終了。遺構掘削前水準測量。31日、包含層上層の人力掘削。X25ライン以北までを終了。X25ライン以北の遺構確認分布図を作成。第3回委託業務（X30ライン以北包含層人力掘削後）段階確認。
- 8月 上旬 X25ライン以北遺構確認状況の写真撮影後、第1面遺構掘削開始。SD2の覆土上層は腐植質を主体とし、土師器杯、鉄滓等が出土。3日、SD2遺物出土状況写真撮影・実測。4日、事務処理。遺物水洗。6日、SD1・2遺構掘削。SD2セクション写真撮影。SD2から柱根が出土。8日、SD2セクションの写真撮影・実測・土層注記。同遺物出土状況写真撮影。10日、現場の安全対策を実施。
- 中旬 第1面遺構掘削を継続。11日～15日、お盆休み。



1. 表土掘削状況



2. 機械掘削状況



3. 人力掘削状況

16日、SD2標面中に縄文土器包含層を確認。2面調査の可能性。20日、残土置き場を調査区北東部から南部へ移動。ベルトコンベアも移動。台風11号接近に伴う安全対策を実施。

下旬 21日、ベルトコンベア配置・結線。水中ポンプ用配電板を設置。台風対策実施。降雨のため12時で現場作業中止。室内作業。22日、台風11号のため中止。現場見廻り。23日、X25ライン以南の包含層上層の人力掘削開始。SD2セクション写真撮影。24日、SD2セクション写真撮影・実測。27日、SD2セクション実測。28日、SD2セクション実測。29日、SD2セクション実測。30日、SD2・4ベルト除去。

9月 上旬 1日、X25以南の包含層上層の人力掘削を継続。SD2の遺物出土状況写真撮影。3日、降雨のため15時で現場作業中止。資料整理。5日、SD2遺物取上げ。6日、X25ライン以南の包含層上層の掘削終了。遺構確認。X25以南の包含層上層の人力掘削後水準測量。7日、第4回委託業務(X25ライン以南包含層掘削後)段階確認。10日、台風15号接近に伴う安全対策実施。

中旬 11日、台風15号のため現場作業中止。12日、X25以南第1面遺構掘削・同遺物取上げ。X25ライン以南の第1面遺構確認分布図を作成。13日、SD4セクション・遺物出土状況写真撮影。14日、降雨のため現場作業中止。資料整理。17日、SD4セクション写真撮影・実測。19日、X30以北のベルト除去。SD4セクション写真撮影。20日、第1面遺構掘削終了。全体清掃。SD2セクション写真撮影・実測。

下旬 全体清掃継続、X25ライン以北終了。第1面の遺構分布平面実測を開始。SD2セクション実測。25日、第1面遺構分布平面実測終了、レベリング。SD2の完掘時全景写真撮影。26日、第1面の全体清掃終了、遺物取上げ、ベルトコンベア撤去。27日、第1面の完掘状況航空写真撮影。第1面の全体測量、SD3遺物取上げ、SD4完掘時全景写真撮影。小杉町教育委員会立ち会いのもと、第1面の調査終了を確認。28日、残務処理、書類作成、資料整理。

10月 上旬 3日、小杉町教育委員会による段階確認前の予備検査。9日、資料整理。第5回委託業務(第1面



1. 遺構実測状況



2. 航空写真撮影状況



3. 確認検査状況

遺構削後高さ)段階確認。

中旬 11日 ベルトコンベア配置・結線、包含層下層の人力掘削開始。19日、X25ライン以北の包含層下層の機械掘削開始。

下旬 包含層下層の人力掘削継続。22日、X25ライン以北の機械掘削終了。23日、調査区内の排水用側溝掘削。24日、側溝掘削継続。グリッド杭再設定。25日、第6回委託業務(包含層下層機械掘削削後高さ)段階確認。26日、人力掘削終了。遺構確認。29日、第7回委託業務(包含層下層人力掘削削後高さ)段階確認。第2面遺構掘削開始。

11月 上旬 1日、遺構掘削継続。7日、第2面遺構掘削終了。全体清掃。9日、全体清掃終了。後片付け。10日、第2面の完掘状況航空写真撮影。第2面の全体測量。

中旬 12日、収集準備。調査区壁面セクション実測、写真撮影開始。15日、調査区壁面セクション実測終了、写真撮影終了。16日、ベルトコンベア、事務所用発電機撤去・搬出。平面実測終了。第2面完掘写真撮影をもって現地作業終了。17日、事務所・仮設トイレ撤去。

下旬 26日、調査区内水抜き、第8回委託業務(第2面遺構掘削削後高さ)段階確認。



1. 整理作業(水洗い)



2. 整理作業(実測)

整理作業

平成13年

10月 上旬 古代以降の出土遺物水洗作業。

中旬 遺物取り上げ台帳の浄書作業。

下旬 古代以降の出土遺物注記作業。

11月 上旬 古代以降の出土遺物接合・復元作業。縄文時代の出土遺物水洗作業。

中旬 古代以降の出土遺物接合・復元作業。縄文時代の出土遺物水洗作業。

下旬 古代以降の出土遺物実測作業。縄文時代の出土遺物注記作業。

12月 上旬 古代以降の出土遺物拓本・トレース作業。縄文時代の出土遺物接合・復元作業。

中旬 古代以降の出土遺物実測・拓本・トレース作業。縄文時代の出土遺物接合・復元・実測作業。

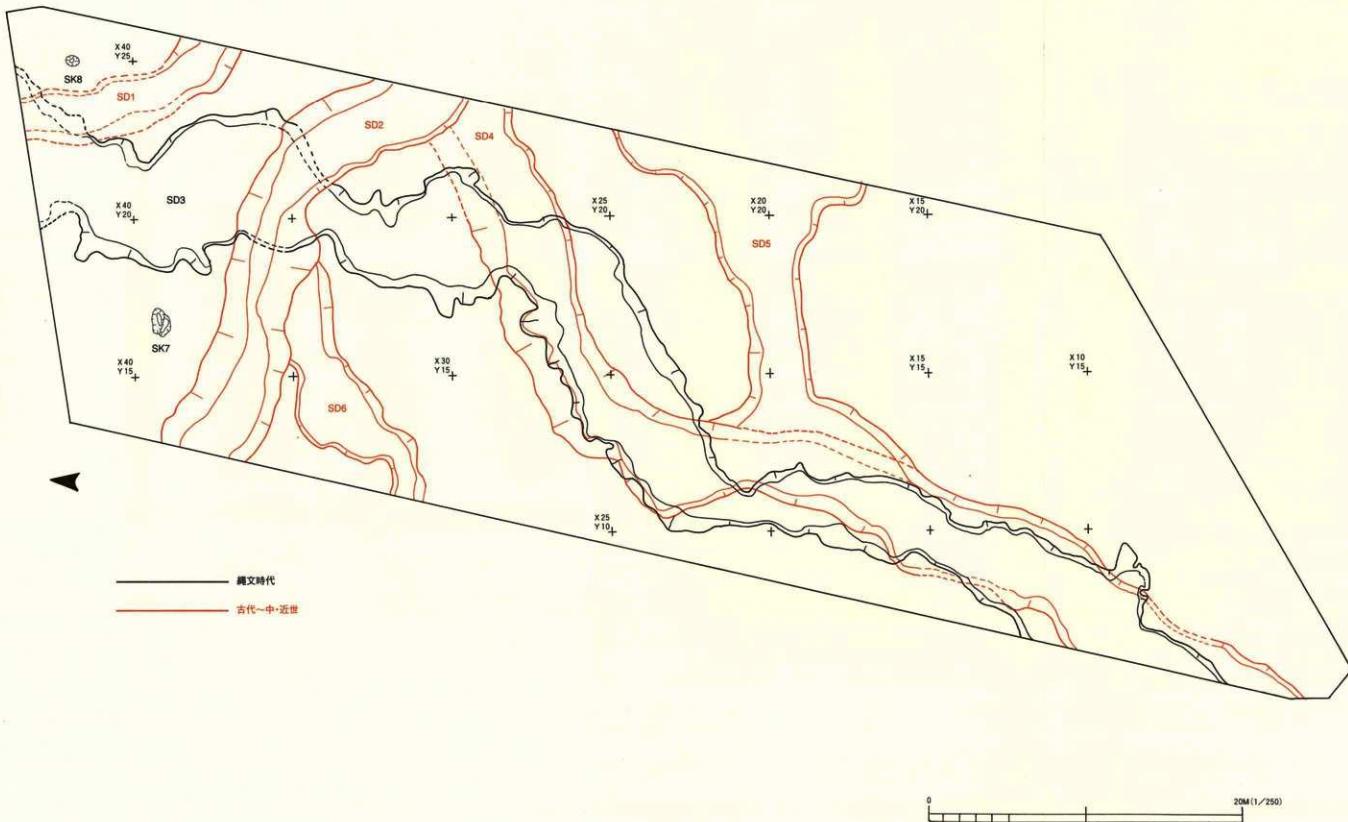
下旬 縄文時代の出土遺物実測・拓本・トレース作業。遺構・遺物原稿執筆作業。

平成14年

1月 上旬 遺構挿図・図版作成作業。

中旬 遺物櫃包作業。

下旬 原稿入稿・台帳・図面類の整理作業。



II 遺構と遺物

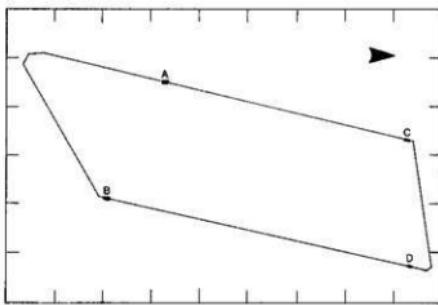
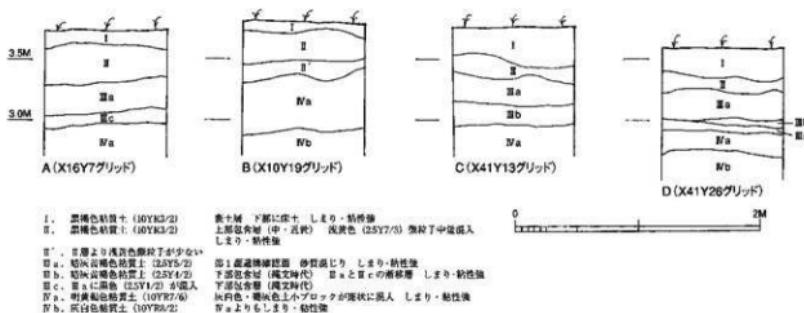
1 基本層序

本遺跡の基本土層堆積は、調査区全域の壁面を観察することによって把握した。

基本層位は、大きく分けて、上から順にⅠ層：黒褐色粘質土（表土・水田耕作土、層厚30cm）、Ⅱ層：黒褐色～暗褐色粘質土（包含層上層、古代～中・近世の遺物を包含、層厚10～35cm）、Ⅲ層：灰黄～黃灰色粘質土（第1面古代～中・近世遺構面、包含層下層、縄文時代の遺物を包含、層厚30～40cm）、Ⅳ層：灰白色粘質土（第2面縄文時代遺構面、層厚30cm以上）からなる。

このうち、Ⅱ・Ⅲ層中には、腐植物の混入が見られる。のことから、これらの層が比較的緩やかな水流のもとで堆積したと考えられ、この地点が河川の河道内に位置していたことを裏付けている。低湿地における上層堆積の特徴をよく表している。

また、Ⅱ・Ⅲa層の厚さは南側よりも北側で薄くなる傾向が見られる。これは、もともとの地形が南側から北側へ向かって緩やかに傾斜しているためであり、後世の耕作や整備等による客土の影響も加わったためと考えられる。



第13図 黒河・中老田遺跡基本土層図



第14図 第2面（縄文時代面）遺構分布図

2 繩文時代

(1) 遺構

SD3 (第16図 図版4・5)

本遺構は南東側のX10Y6グリッドから北西側のX43Y22グリッドにかけて調査区を南北に継続する。両端は調査区外へと続く。断面形状は皿状で、最大幅10.8m（上端）、7.2m（下端）、最小幅2.8m（上端）、1.8m（下端）、最大深さ0.4m、最小深さ0.2mである。遺構底面の標高はX10Y6グリッド付近で290m（上端）、2.65m（下端）、X43Y22グリッド付近で2.68m（上端）、2.37m（下端）である。これにより、本遺構は南から北へ蛇行しながら流下していたと考えられる。

重複関係はSD1・2・4に切られている。SD4とは底面の深さに差があるが、一部重複して流下している。

遺構内の堆積土は、砂質土と粘質土が互層をなしている。

出土遺物には縄文土器・土製品・石器がある。このうち縄文土器は、中期後葉の串田新式、後期初頭前田式・後期前葉気屋式が認められる。土製品は、耳飾と土器片錐および円盤状土製品がある。石器には磨製石斧・打製石斧等がある。遺物は、そのほとんどが覆土最下層の砂質層から底面にかけて分布していた。

本遺構は、幾度かの流路変更を経ながら自然埋没したものと考えられる。その過程はSD2より複雑であり、場所によって遺構内の覆土が違うため、詳細な変化を追うことは困難である。

SK7 (第16図 図版6)

本遺構は北側のX39Y17グリッドに位置する。掘り込み面はⅣ層上面である。平面形状は不整形で、長軸1.7m、短軸1.2m、深さ45cmである。断面形状は逆台形を示す。

遺構内の堆積土はⅢb層より暗い色調の暗灰色粘質土で、炭化物粒子を中量含んでいる。

覆土中から縄文時代中期後葉の串田新式期の上器が出土した。

SK8 (第16図 図版6)

本遺構は北側のX42Y25グリッドに位置する。掘り込み面はⅣ層上面である。平面形状は梢円形で、長軸90cm、短軸70cm、深さ14cmである。断面形状は皿状を示す。

遺構内の堆積土はⅢb層に近似するが、若干、色調の暗い暗灰色粘質土で、炭化物粒子を少量含んでいる。

出土遺物はない。

(2) 遺物

SD3 (第17~24図 図版17~24)

出土遺物は縄文土器と土製品、石器が出土している。縄文土器は、中期末～後期前葉頃のもので破片を主体とした20箇余りが出土している。土製品は耳飾と土器片錐・円盤状土製品が出土している。耳飾は1点が出土している。土器片錐は上器胴部破片を梢円形に加工したもので、長辺側に明瞭な切り目を入れたもの20点余りが出土している。円盤状土製品は、はっきりした切り目をもたないものの40点弱が出土している。石器は磨製石斧・打製石斧・敲石・円石・磨石・石皿が出土している。

縄文土器はおおよその時期を勘案しながら文様構成別に掲載する。

1~4は、頸部に低い隆帯を貼り付け隆帯上に刻目を施す土器で、串田新式土器の面影を残した中期末葉の上器である。1・2は口縁部が平縁の外反器形で、1は口縁部四方を内側に壓ませており補修孔が開けられている。3はくずれたゆるい波状口縁を持っている。4は隆帯をもった壺形のものである。

5は列点文を施した並行沈線区画の下に、葉脈状文を施した深鉢胴部片である。文様の不明瞭な6を除いて葉脈状文は1点だけ出土している。

7~10は口縁部が外反する器形で頸部の文様帶の沈線文間に列点文を施している。列点文は一段のもの、二段のものがあり、平行沈線間に施すものと弧線内に施すものがある。

11～13は隆起線の施された上器で、11は深鉢脣部に細い三角形細隆起線文を一周させその下に縦方向の細隆起線を施している。12・13は断面や丸味を帯びた隆起線文が施されている。

14～33は幅広沈線文を主体とする土器で中期末～後期初頭の前田式上器の一群に含まれるものである。14～19は口縁部が外反する器形で、口縁下に一周する幅広の沈線文を2条から4条施している。20は口縁と脣部の2条の沈線の間に縦方向に沈線を引き並べ、21は口縁部と脣部の横の沈線を分断するように縦の区画線文を施している。22は横1条の沈線の下に縦方向の区画線を入れ、24はさらに縦区画線に加えて蛇行沈線を施している。20・21・24はいずれも幅広で先端部の丸い工具による深いしっかりした太沈線を引いている。22・23の沈線は先端方形で細い条線痕の残る工具を使用した全体的に弱い印象の沈線文である。25～33も浅く弱い沈線となっている。25～28のように沈線間に台形区画を施すもの、29のように沈線間に鋸歯状の沈線文を施すものがある。30は口縁部と脣部に巡る沈線文間に弧状沈線を施している。31～33は脣部に縦の沈線文を施している。

34・35は口縁部に橋状部を持った浅鉢である。

36～44は口縁部に引かれた沈線が一周せずに、途中で巴文状に折れ曲がったり、さらに不規則な幾何学的文様へ変化する上器である。36・37・40・41は巴文状、39は「J」字状、42・43は幾何学文様が施されている。器形は、深鉢では39・41・42のように口縁部が内湾するものがあらわれ、36・37のように口縁部の内傾した臺形、43・44のような鉢も見られる。前田式土器から次の気屋式土器へ過渡期の様相を持った土器と見られる。

45～50は口縁部の文様帶に複数条の円弧文や縦・横方向の沈線文を組み合わせた土器で、82以降に掲載した三角形の連続刺突文の上器とともに気屋式土器の範疇に入ると思われる。

51～55は口縁部直下に引かれた1条ないし2条の沈線文が押し引き手法によるものである。口縁部が外反するもの、緩やかに内湾するものもある。

56～69は口縁部直下から脣部に緩やかに波打つ波状沈線文を1条から2条施している。口縁の器形は内湾傾向のものが多い。

70～81は口縁部直下の波状沈線文が押し引くように短く小さくなっている。施文具の幅はやや広い。

82～89は施文具の幅は70～81と同じぐらいで、押し引くような三角形刺突文が施されている。

90～109は三角形連続刺突文が施されたもので、口唇部に繩を転がすものや棒状工具の圧痕のあるもの、口唇部に小さく波打つような刻みや、やや大きく波打つ刻みを入れているものも見られる。

110～125は口縁に浅いくぼみを入れたものや繩文を施したもの、縦方向の斜繩文の脣部片等である。

126～129は浅い鉢形のもの、130～138はやや底径の大きな深鉢の底部、139～146は中程度の大きさの底部、147～152は底径の小さなものである。160～165は浅鉢の底部と見られるもので、160のように低高台状のもの、165のように脚台を持つものがある。159は鉢付土器の底部と思われる。

上製品は、166の耳飾、167～189の土器片錐、190～225の円盤状土器が出土している。土器片錐は切り目を長軸方向に持った梢円形で大きさは5～7cm、周縁部を細かく欠いて簡単に磨って仕上げられている。完形品が少なく、ほとんどが破損している。円盤状土器は明瞭な切り目を持たない点を除いて、周縁部の整形や仕上げ、全体形状は土器片錐とあまり変わりがない。土器片錐の制作過程の未製品か、明瞭な切り目をもたない製品としての土器片錐のどちらかである。

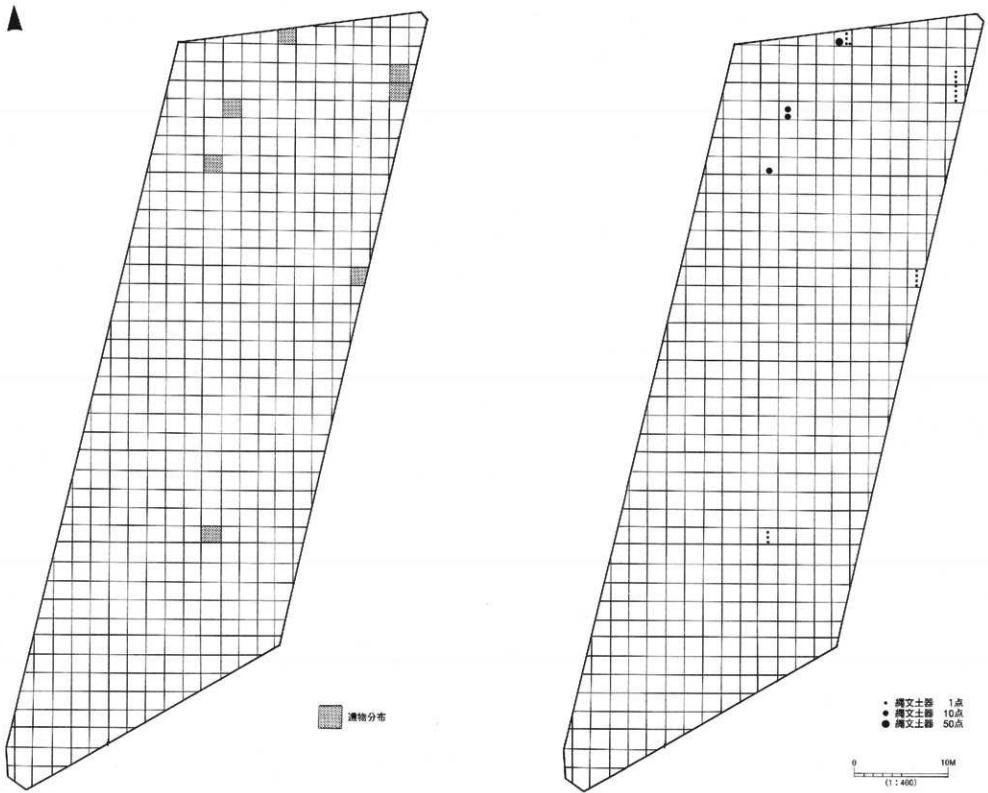
石器は、219の磨製石斧は非常に軟質な凝灰岩製である。

SK7（第24図 図版23）

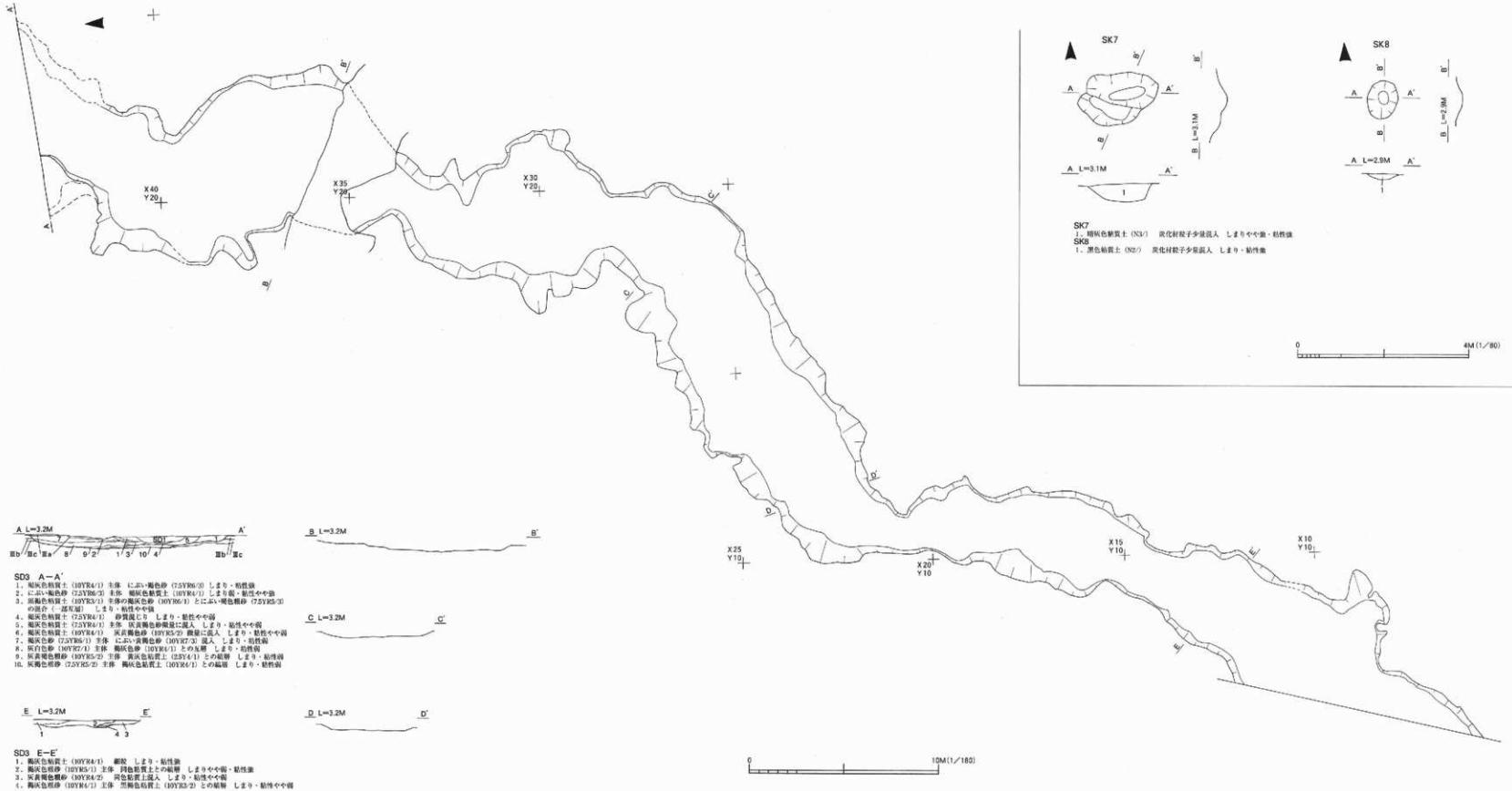
出土遺物は覆土から236の深鉢が出土している。口縁部は外反し端部付近で上方に屈曲し口唇部を肥厚させている。斜繩文を全体に施し、脣上部には横長長方形に器壁の剥離痕が見られる。

包含層（第24図 図版23）

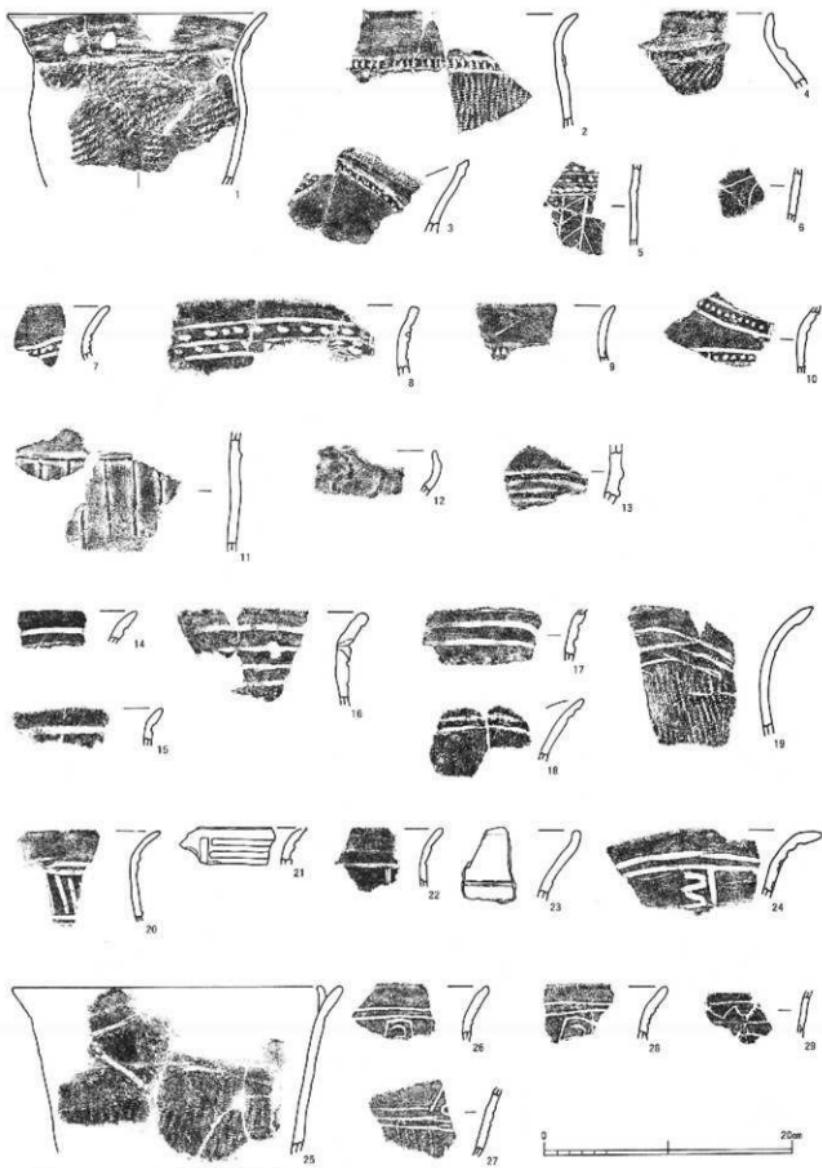
遺物は、底部に網代模様のある235の繩文土器深鉢等が、調査地区の北東部の限られた範囲のⅢ層包含層中から出土している。



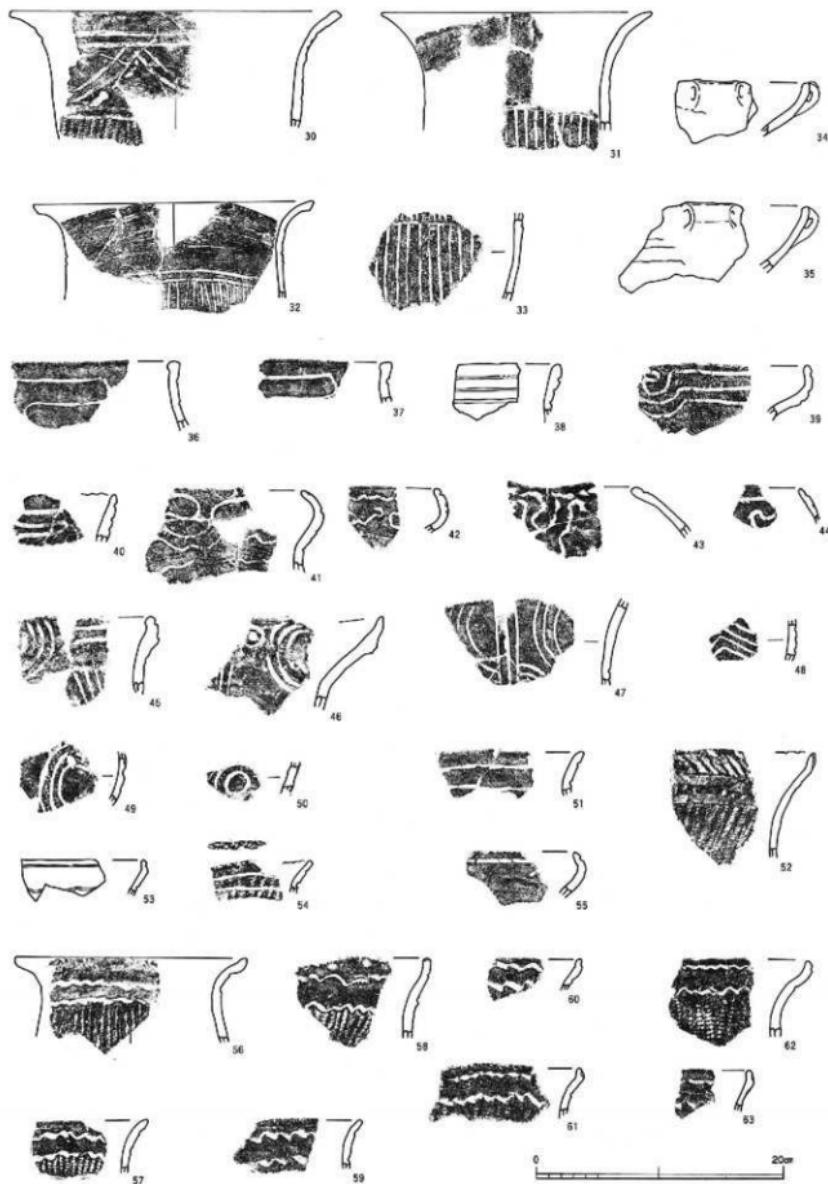
第15図 黒河・中老田遺跡 縷文時代遺物包含層遺物分布平面図



第16図 SD3・SK7・8



第17図 SD3出土遺物実測図(1)



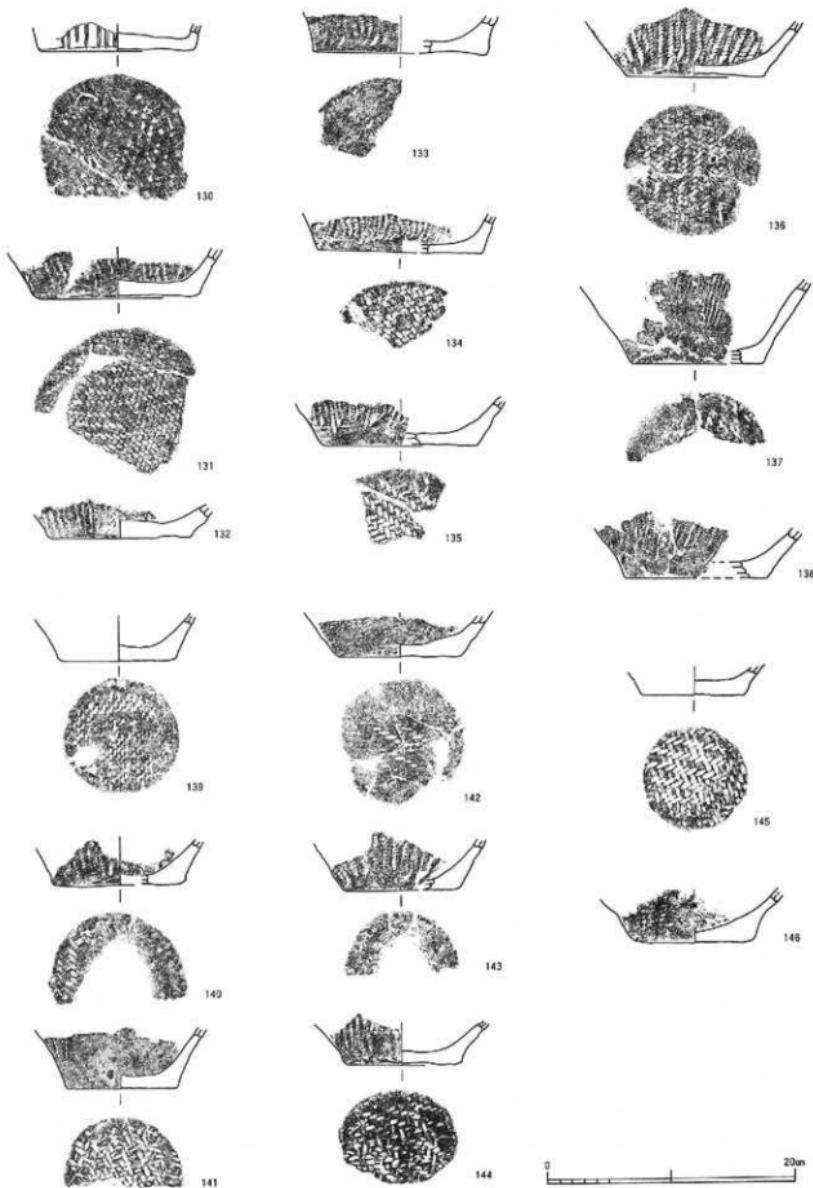
第18図 SD3出土遺物実測図(2)



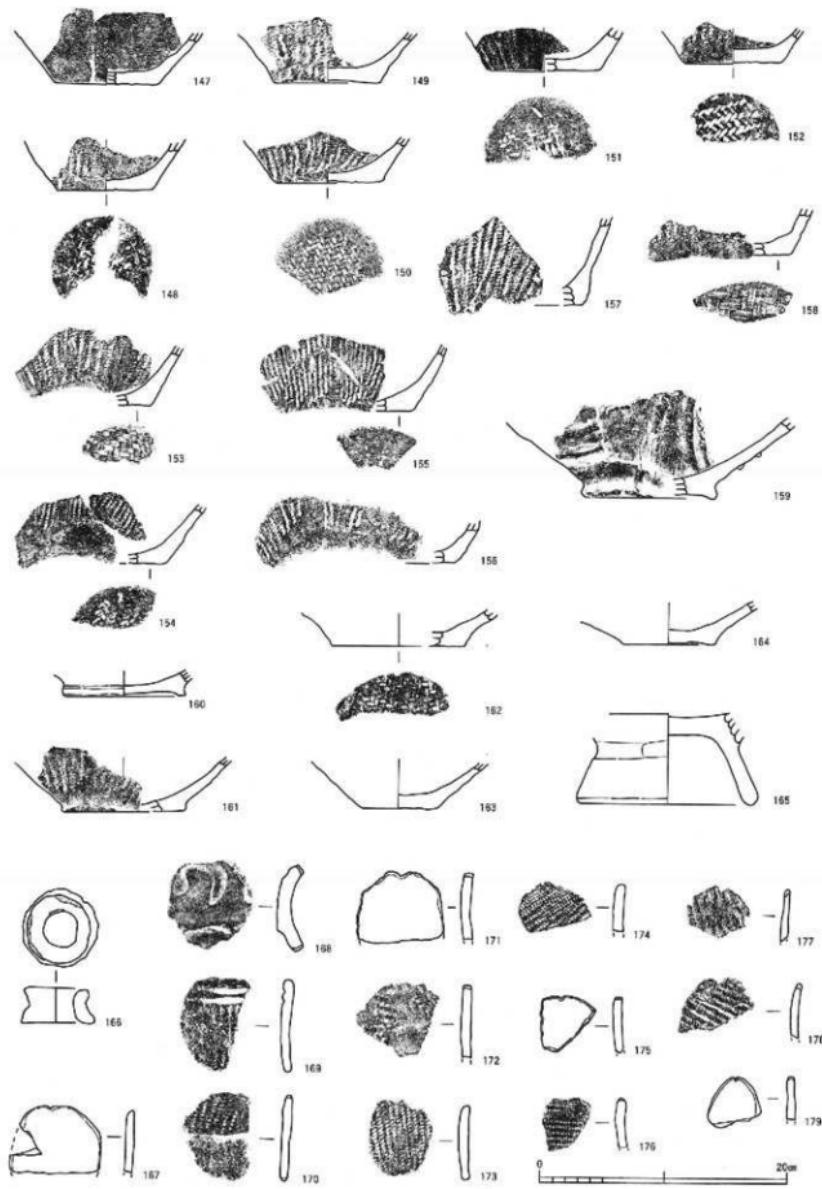
第19図 SD3出土遺物実測図(3)



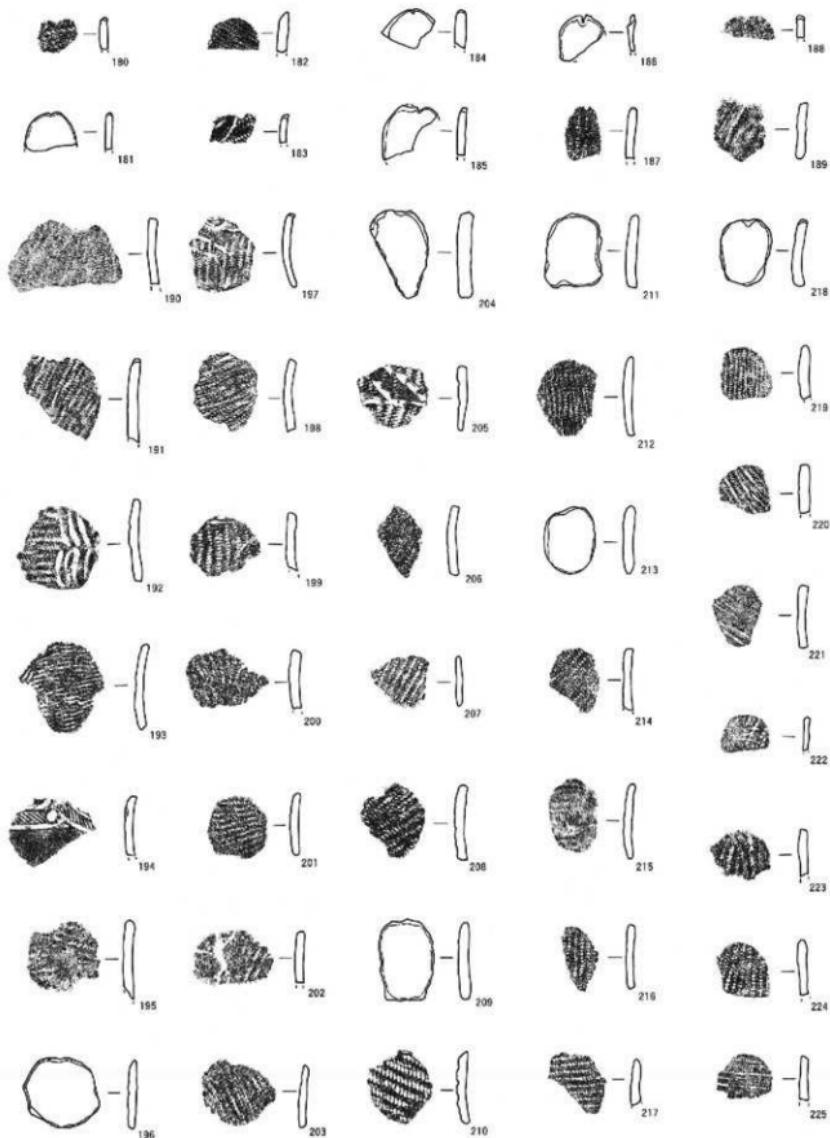
第20図 SD3出土遺物実測図(4)



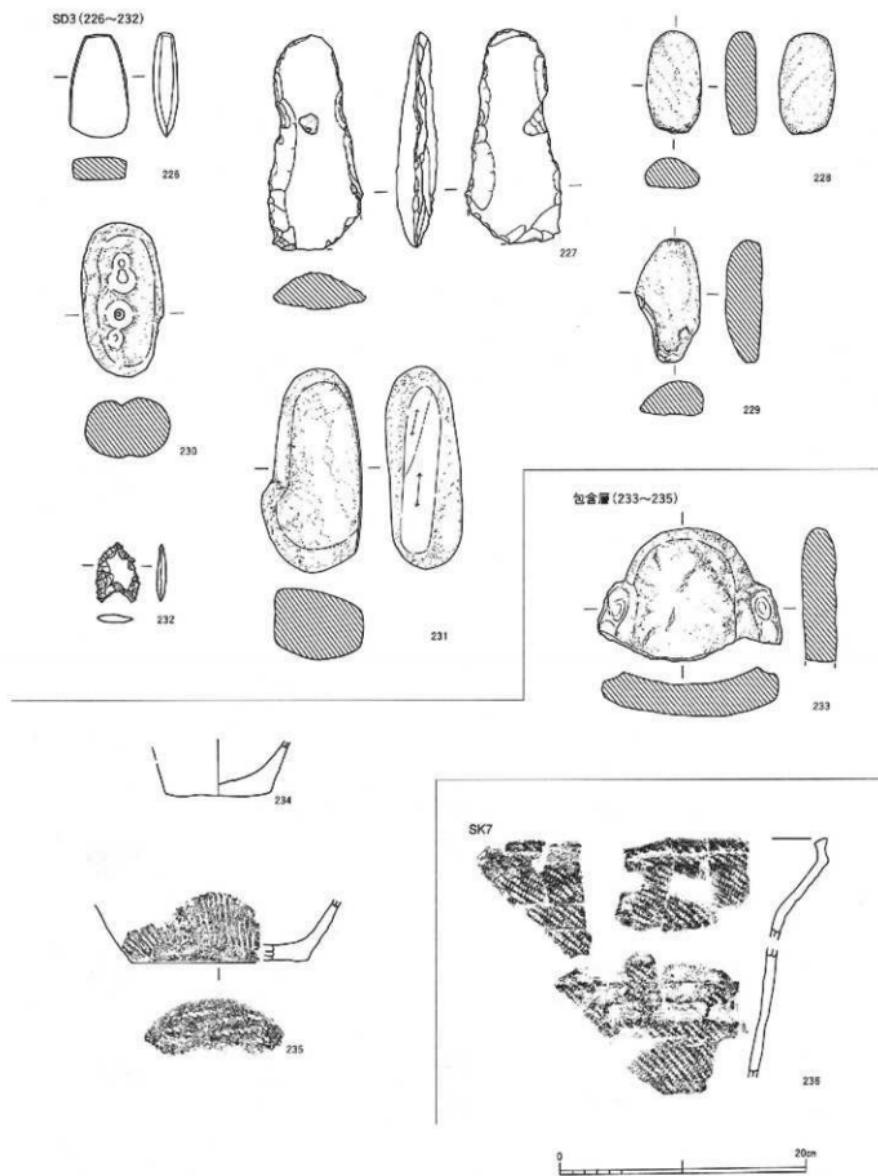
第21図 SD3出土遺物実測図(5)



第22図 SD3出土遺物実測図(6) (166 1/2)



第23図 SD3出土遺物実測図(7)



第24図 SD3(8)・SK7・包含層(Ⅲ層)出土遺物実測図(232 1/2)

3 古代

(1) 遺構

SD2 (第26図 図版9~11)

本遺構は北側のX31Y25グリッドからX37Y12グリッドにかけて調査区を東西に横断する。両端は調査区外へと続く。断面形状は連台形で、最大幅5.8m (上端)、3.7m (下端)、最小幅3.7m (上端)、0.6m (下端)、最大深さ1.1m、最小深さ0.9mである。遺構底面の標高はX31Y25グリッド付近で3.25m (上端)、2.23m (下端)、X37Y12グリッド付近で3.25m (上端)、2.14m (下端)である。これにより、本遺構は東から西へ蛇行気味に流下していたと考えられる。

重複関係はSD3を切り、SD4に切られる。SD6とは後述する。

遺構内の堆積土は覆土上層が腐植物を主体としており、流木を多く含む。覆土下層は腐植物、炭化物を含み、一部に砂質土を多量に含んだ黒色粘質土層が見られる。SD3と重複する部分では一部砂質土と粘質土の互層が認められる。

出土遺物には8~9世紀の須恵器、土師器、曲げ物底板および板材がある。

本遺構の埋没状況はいずれもレンズ状の自然堆積を示しており、大きく3段階に分けられる。第1段階は本遺構中の南寄りに、比較的流れが速い流路が形成され、砂を多量に含む黒色粘質土によって埋没したと考えられる。その埋没段階に相当する覆土層からは、8世紀前半代の須恵器杯Bが出土している。

第2段階は流れが前段階より遅くなり、砂質土よりも粘質土や腐植物を少~中量含んだ層が多くみられるようになる。その埋没段階に相当する覆土層からは、9世紀前~中葉の須恵器杯B・土師器碗が出土している。

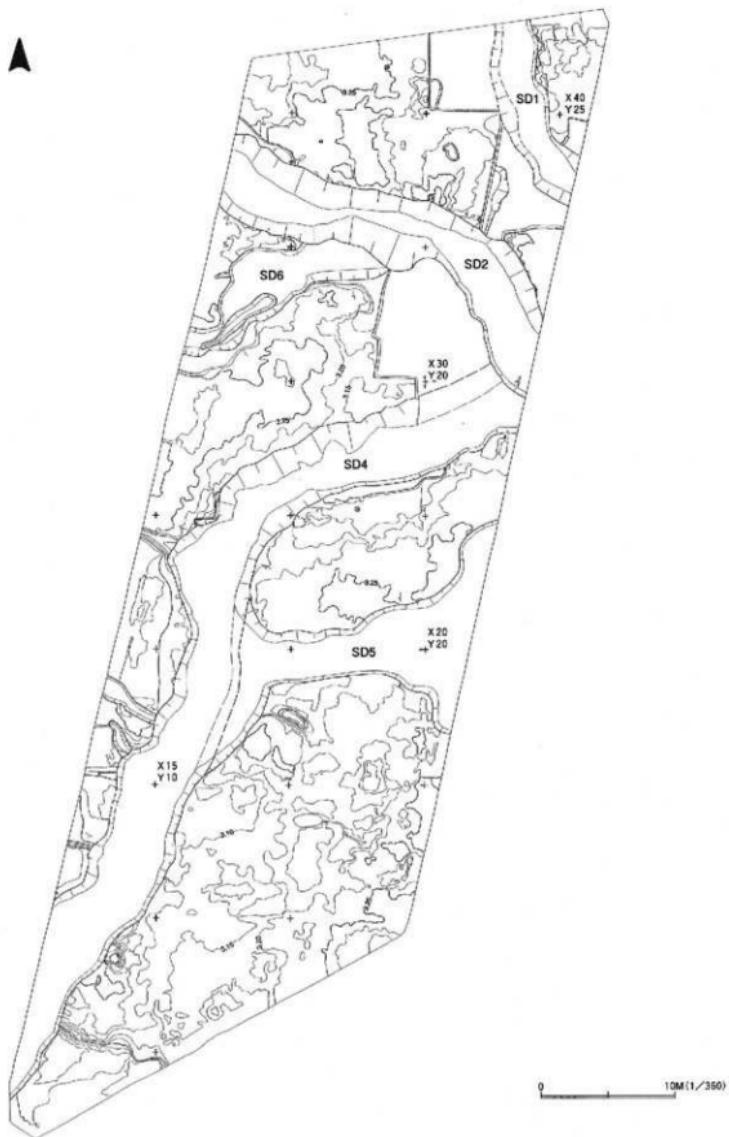
第3段階は流れが前々段階よりさらに遅くなり、腐植物主体の黒色土中に流木が多くみられるようになる。その埋没段階に相当する覆土上層からは、中~近世の珠洲焼・陶器・曲げ物の底板・板材が出土している。

土層断面からSD6との重複関係をみると、次のようになる。SD2の第1~2段階までの覆土はSD6の覆土によって切られており、SD2の第3段階の覆土はSD6の覆土を切る。したがってSD2の第1~2段階はまだSD6は形成されていなかった。その後、第2段階と第3段階の間にSD6が形成され、最終的にSD2とSD6がほぼ同時に埋没したと考えられる。

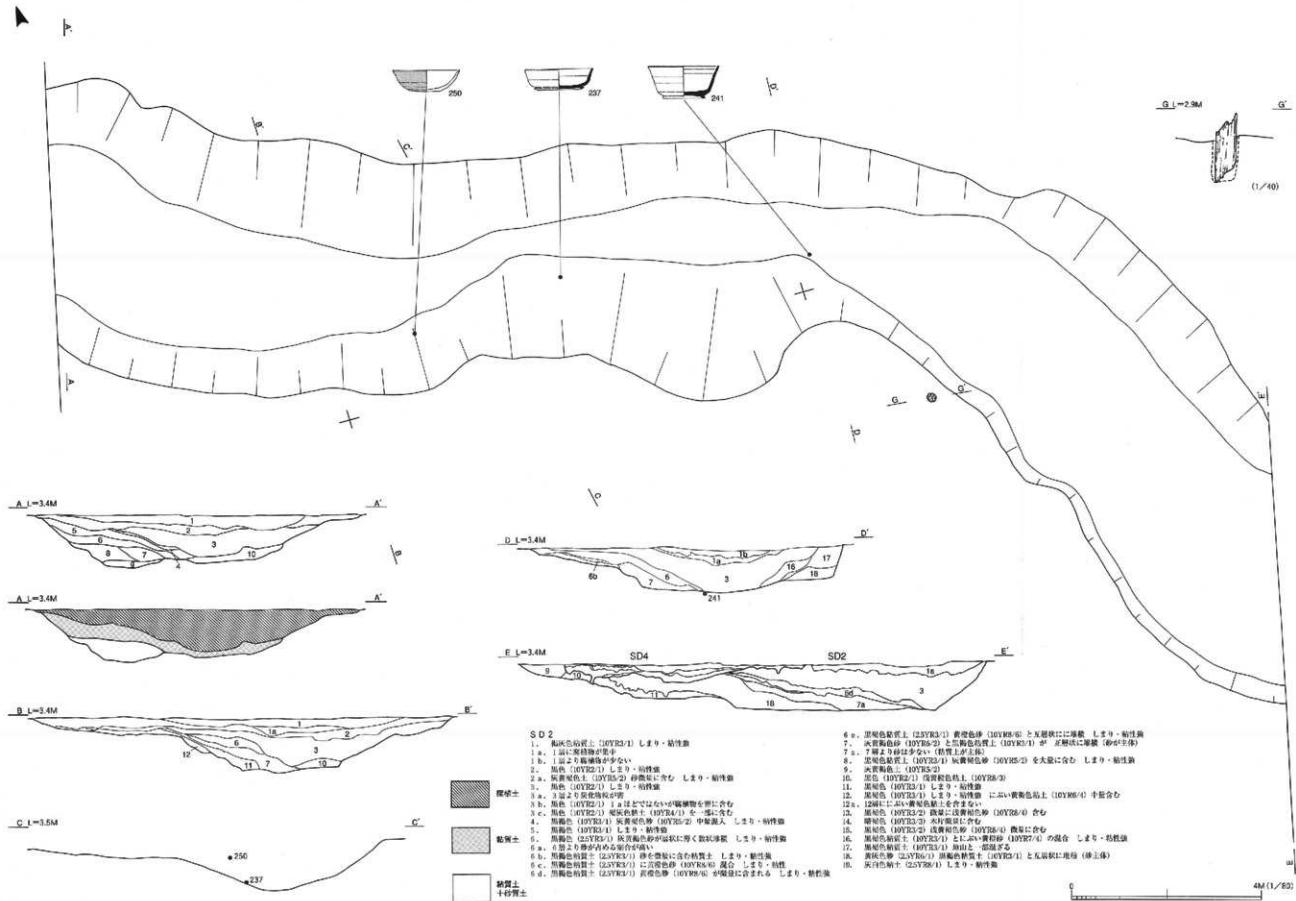
(2) 遺物

SD2 (第27~28図 図版24~27)

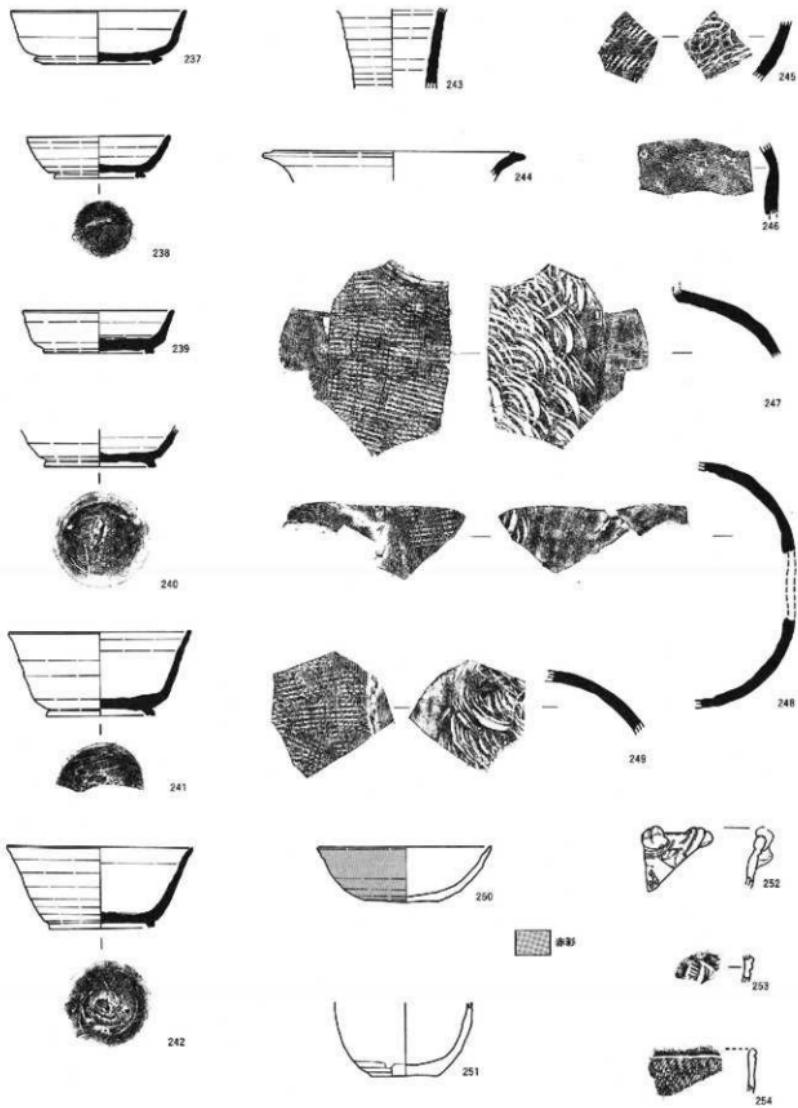
出土遺物は覆土から須恵器杯B・長颈瓶・壺・横瓶、土師器の碗と小形壺が出土し、護岸付近からは255の柱状木製品、覆土上層からは257の曲げ物底板が出土している。須恵器杯Bは6点出土しており、8世紀前半代頃の237が最も古い。237は器高が低く高台部は外側に向かって強くハの字状にひろがり内側端部で接地する。8世紀後半代の238や240は器高が高く体部・底部の器壁が厚くぼってりとした印象がある。9世紀前半代の241や後半代の242は器高が高くなっている。247~249の横瓶は外腹縦格子状の叩き、内面同心円文のあて具痕を残し精良な胎土である。250の外腹赤彩の土師器碗は底部ヘラ切りで9世紀第3四半期頃のものである。そのほかに覆土に混入して252~254の绳文時代中期中葉後半頃の土器が出土している。



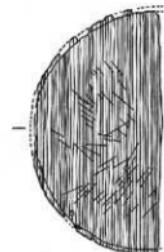
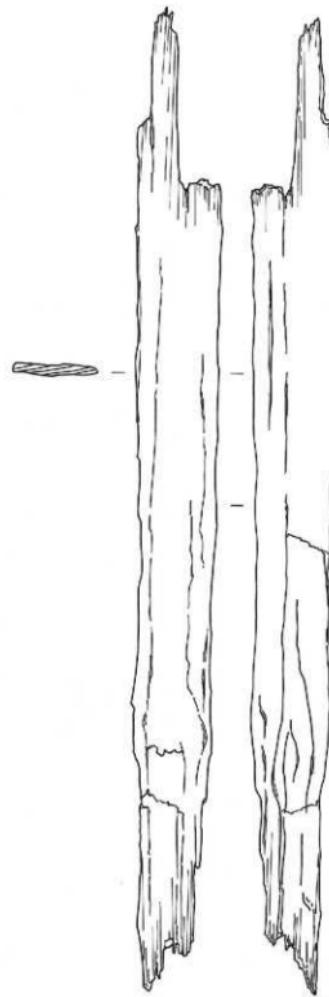
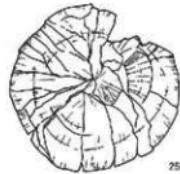
第25図 第1面（古代～中・近世）遺構分布図



第26図 SD2 (1/80)



第27図 SD2出土遺物実測図



0 30cm

0 20cm

第28図 SD2出土木製品実測図 (255・256 1/6 257 1/4)

3 中・近世

(1) 造構

SD1 (第30図 図版8)

本造構は北東側のX38Y26グリッドからX43Y23グリッドにかけて位置する。両端は調査区外へと続く。断面形状は皿状で、最大幅3.8m（上端）、2.2m（下端）、最小幅2.6m（上端）、1.8m（下端）、最大深さ0.5m、最小深さ0.3mである。造構底面の標高はX38Y26グリッド付近で3.26m（上端）、2.76m（下端）、X42Y23グリッド付近で3.10m（上端）、2.76m（下端）である。これにより、本造構は東から北へ弧を描きながら流下していたと考えられる。

重複関係は溝の西側でSD3を切る。

造構内の堆積土には、覆土上層でわずかに腐植物と炭化物を含む灰色粘質土層が見られる。覆土下層は粘質土と砂質土の互層が認められる。

出土遺物には越中瀬戸の瓶がある。

本造構の埋没状況はいずれもレンズ状の自然堆積を示しており、覆土下層で粘質土と砂質土の互層が認められることから、水流が比較的流れの早い時期と緩やかな時期が交互に出現しつつ埋没したと考えられる。

SD4 (第32図 図版12-13)

本造構は南西側のX7Y6グリッドから北東側のX31Y25グリッドにかけて調査区を南北に横断する。両端は調査区外へと続く。断面形状は皿状で、最大幅6.33m（上端）、5.05m（下端）、最小幅4.1m（上端）、2.4m（下端）、最大深さ0.3m、最小深さ0.1mである。造構底面の標高はX7Y6グリッド付近で3.12m（上端）、2.91m（下端）、X31Y25グリッド付近で3.19m（上端）、2.71m（下端）である。これにより、本造構は南から北へ蛇行しながら流下していたと考えられる。

重複関係はSD2・3を切り、SD5とはほぼ同時期と考えられる。

造構内の堆積土は黒色土で、腐植物を主体とし、自然流木が多く含まれている。

出土遺物には中世の珠洲焼、板状木製品がある。また流入遺物としては土師器・須恵器が認められる。

本造構は、SD3の覆土の上にⅢa層が堆積し、そのⅢa層を掘り込むようにSD4が形成されていた。これによりSD3が埋没してしばらく時間をおいた後に、SD4が形成されたことを示している。

SD5 (第33図 図版14)

本造構は中央部のX20Y21グリッドからX20Y12グリッドにかけて調査区を東西に横断する。東端は調査区外へと続き、西端はSD5と合流する。断面形状は逆台形で、最大幅16.4m（上端）、15.7m（下端）、最小幅3.4m（上端）、2.6m（下端）、最大深さ0.3m、最小深さ0.2mである。造構底面の標高はX20Y21グリッド付近で3.24m（上端）、3.11m（下端）、X20Y12グリッド付近で3.20m（上端）、3.01m（下端）である。これにより、本造構は東から西へ流下していたと考えられる。

重複関係は本造構の西端でSD4に合流すると考えられる。

造構内の堆積土は腐植物を主体とする黒色土である。

出土遺物には土師器・須恵器があるが、いずれも細片で、後世の流入遺物である可能性が高い。

本造構は、水流が緩やかな状況下で腐植物が堆積しながら埋没したと考えられる。

SD6 (第31図 図版15)

本造構は北側のX31Y10グリッドからX35Y16グリッドにかけて調査区を東西に流れる。西端は調査区外へと続き、東端はSD2の上層部に切られる。断面形状は西側の立ち上がりが緩やかな皿状で、最大幅5.1m（上端）、4.4m（下端）、最小幅1.7m（上端）、1.1m（下端）、最大深さ0.34m、最小深さ0.1mである。造構底面の標高はX31Y10グリッド付近で3.19m（上端）、2.89m（下端）、X35Y16グリッド付近で3.24m（上端）、2.90m（下端）である。これにより、本造構は西から東へ流下していたと考えられる。

重複関係は、SD2の第1・2段階を切り、第3段階に切られる。

遺構内の堆積土は腐植物主体の黒褐色土である。

出土遺物は見られなかった。

本遺構は、SD2の第2段階が埋没した後に流路が形成され、SD2の第3段階の埋没とは同時期に埋没したものと考えられる。

(2) 遺 物

SD1 (第34図 図版25)

出土遺物は259の越中瀬戸の椀、261の土師質土器小皿、258の土師器椀の小片、260の弥生時代後期～古墳時代前期頃の壺口縁が出土している。

SD4 (第34図 図版25・27)

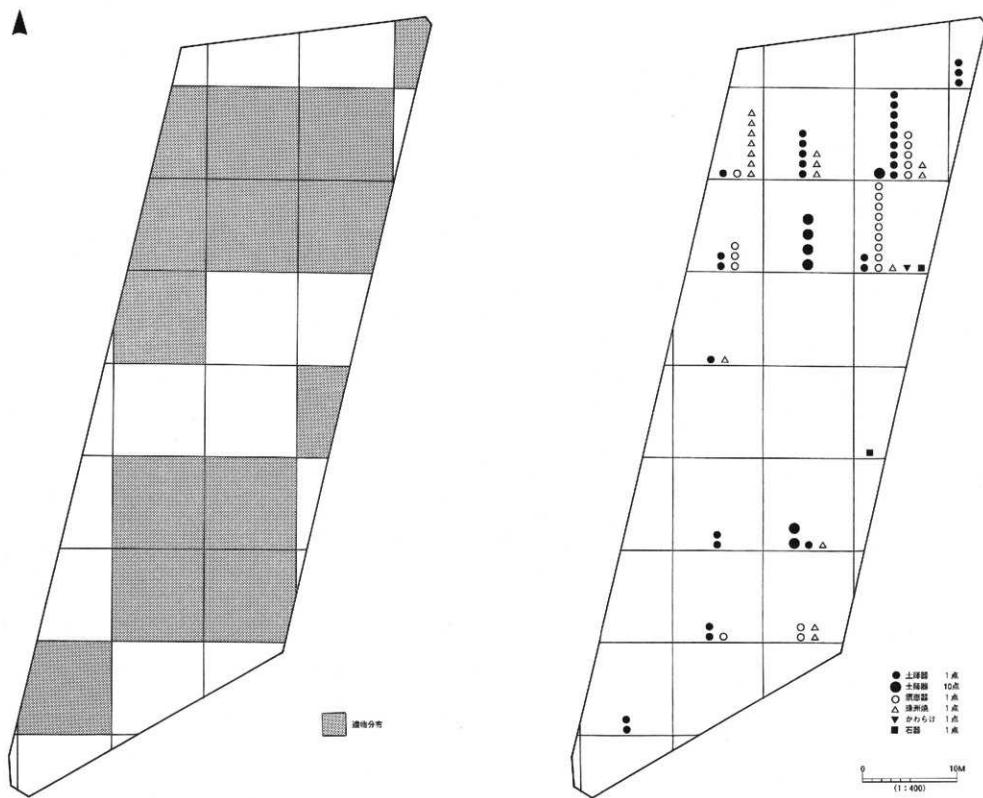
出土遺物は口縁部に油煙の付着した262の土師質土器小皿、263の珠洲すり鉢、264の須恵器杯B・266の長頸瓶、265の壺や267の土師器椀等古代の土器、弥生時代後期頃かと思われる268の壺底部が出土している。269は丸太をミカン割にした長さ1.5m余りの分割材である。

SD5 (第34図 図版25)

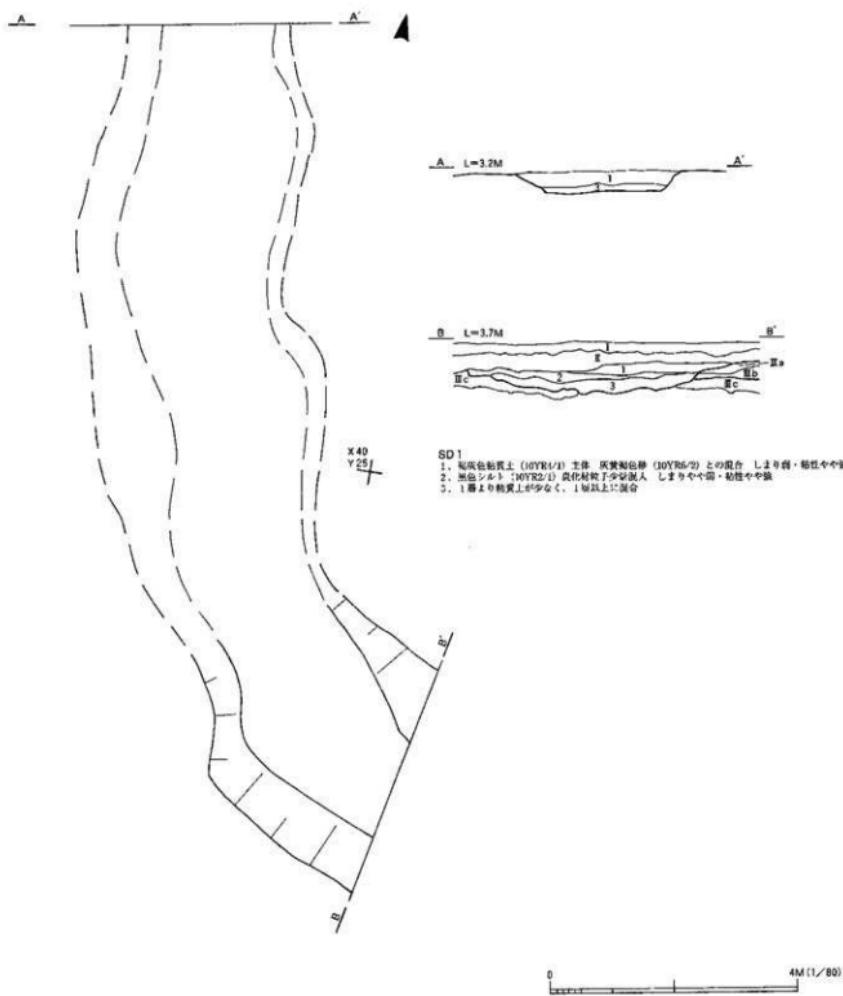
出土遺物は270の須恵器杯B、271の土師器壺口縁部であるがいずれも細片である。

包含層 (第34・35図 図版25・26)

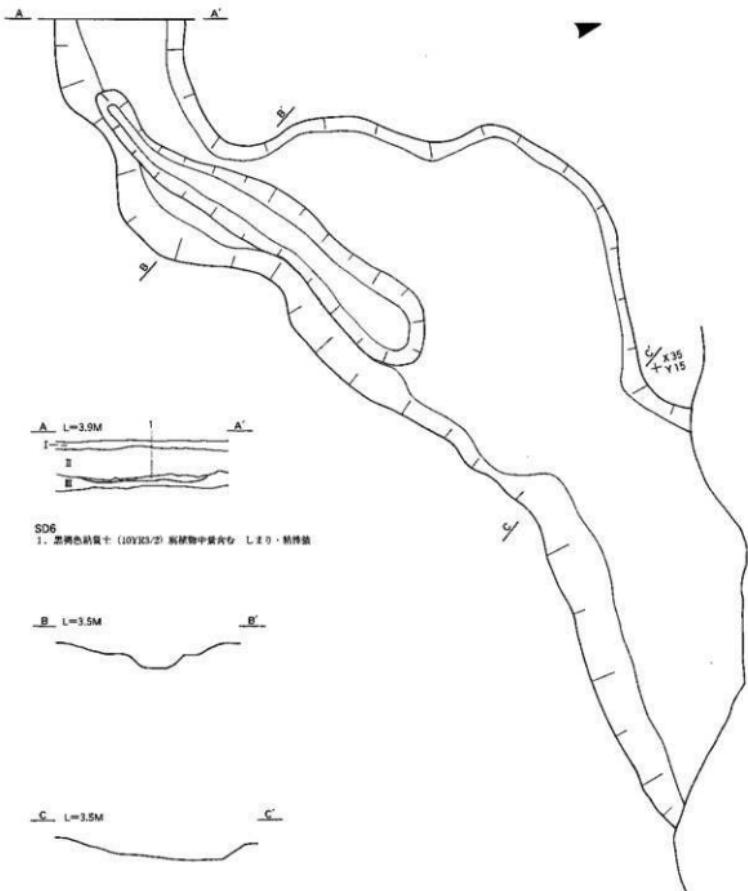
出土遺物は中・近世のものが、273の青磁碗、274～280の珠洲すり鉢、281～283の越中瀬戸の椀である。古代の遺物は285～292の須恵器無台杯・蓋・杯B・壺と293～294の土師器壺である。縄文時代の遺物は296の石棒と295の石皿破片である。包含層の出土遺物の分布状況は第29図に示した通りでSD1・2・6付近とSD4・5の南東側に多い傾向がある。



第29図 黒河・中老田遺跡 古代～中・近世遺物包含層遺物分布平面図

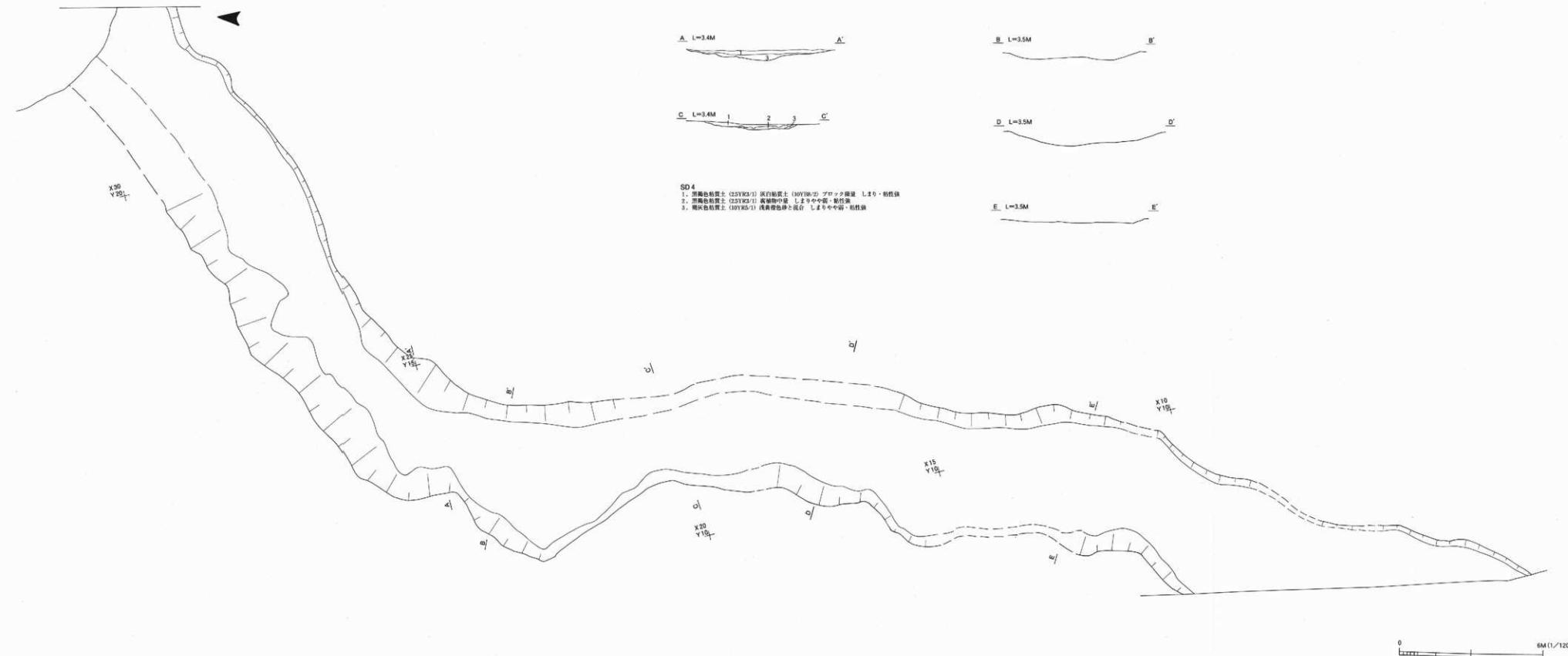


第30図 SD1 (1/80)

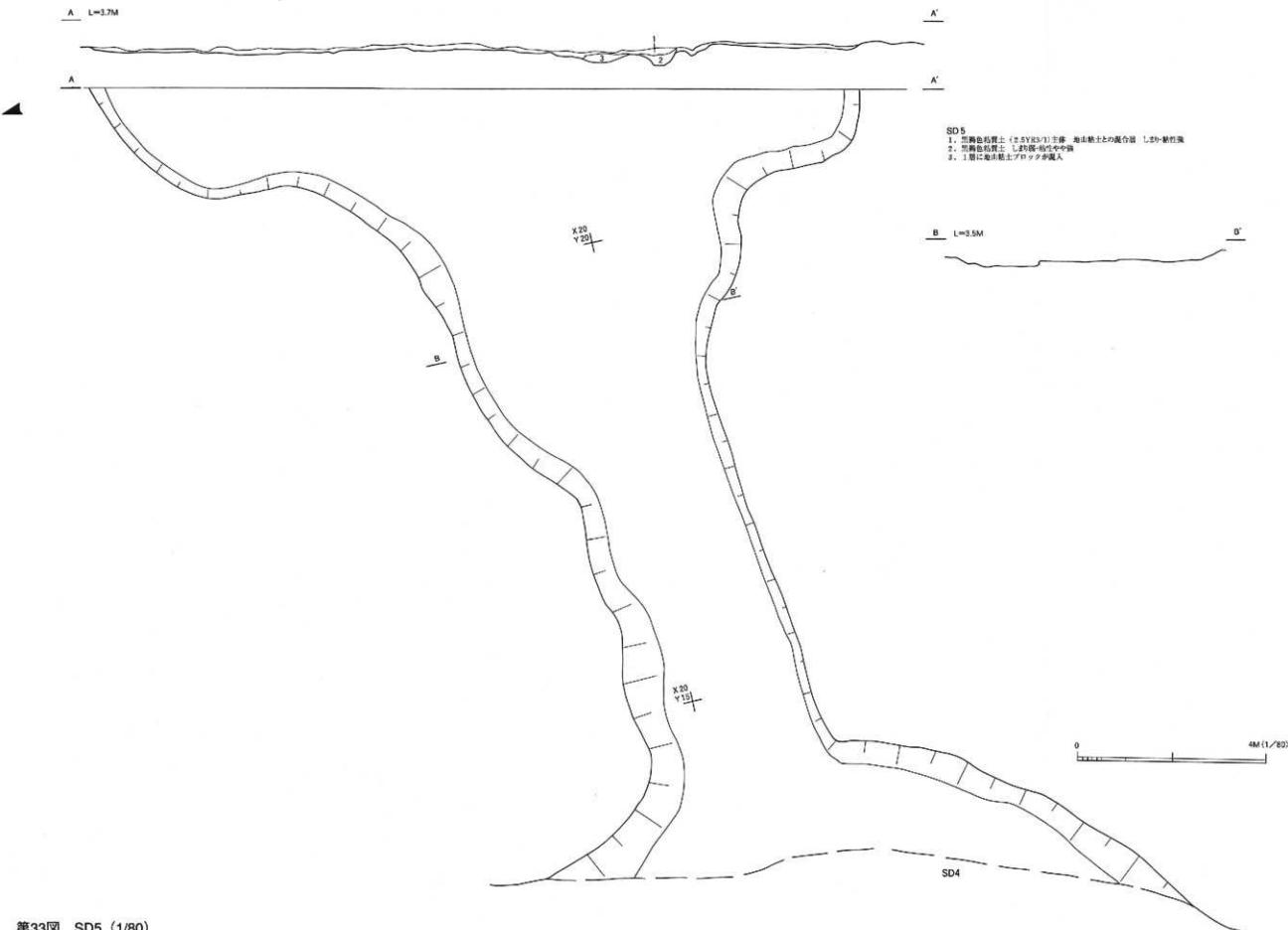


0 4M (1/80)

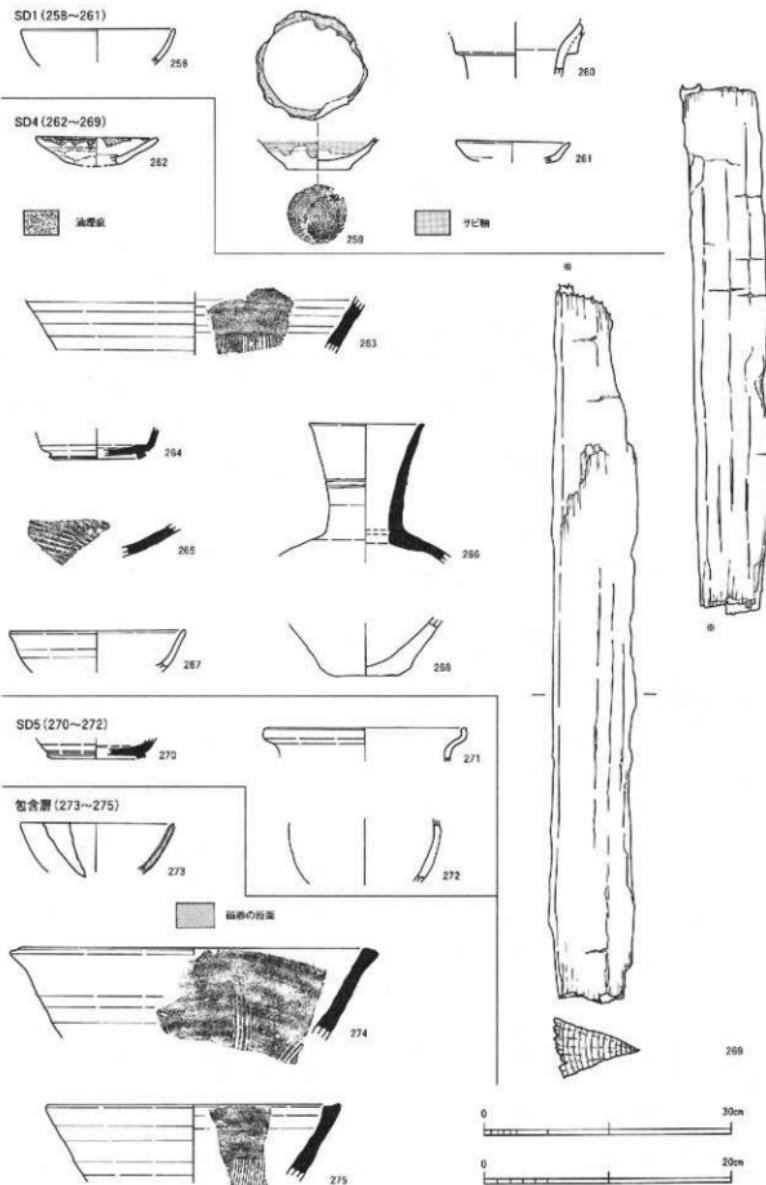
第31図 SD6 (1/80)



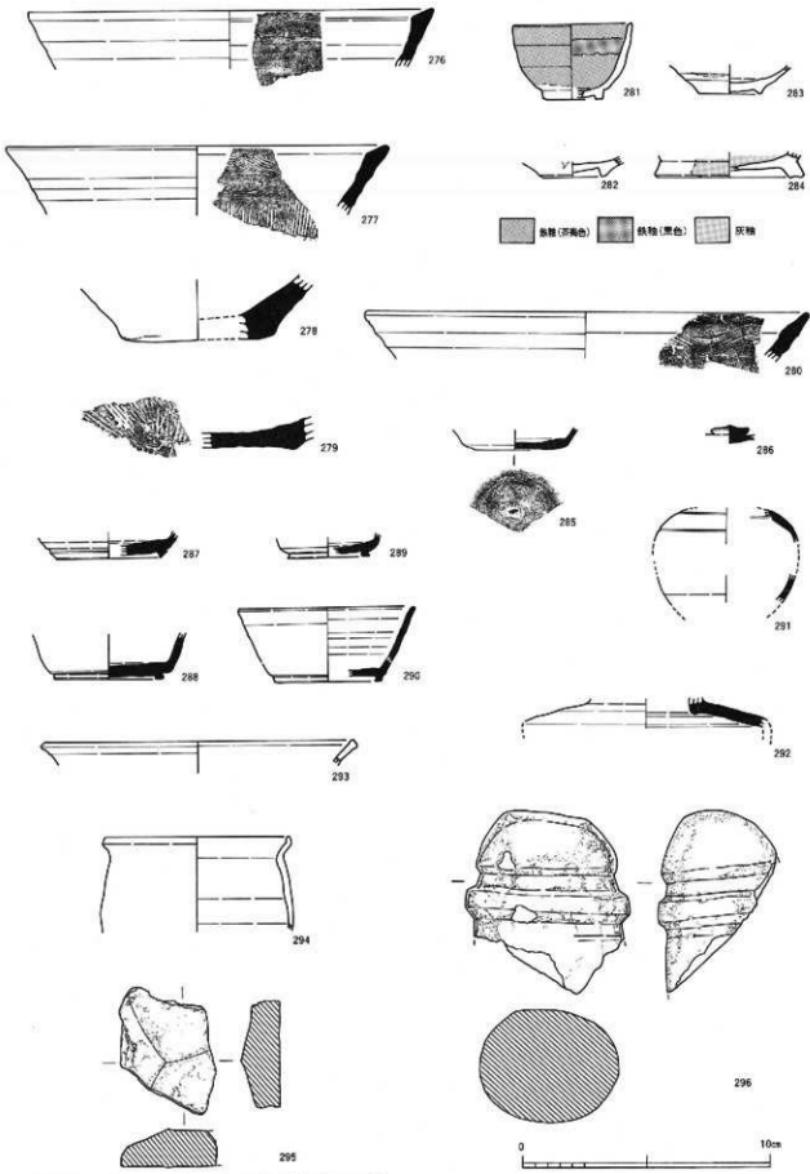
第32図 SD4 (1/120)



第33図 SD5 (1/80)



第34図 SD1・4・5・包含層(Ⅱ層)出土遺物実測図(1) (266 1/6)



第35図 包含層（Ⅱ層）出土遺物実測図(2)

III まとめ

黒河・中老出遺跡の平成13年度調査では、縄文時代の遺構が河道跡1条と土坑2基、遺物は中期中葉・末葉～後期前葉の土器・石器・土製品が整理箱で27箱分、古代の遺構が河川跡1条、遺物は土師器・須恵器が整理箱で3箱分、中・近世の遺構が河道跡4条、遺物は陶磁器と木製品・柱根・木材が約2箱分である。

1 縄文時代

(1) 遺構

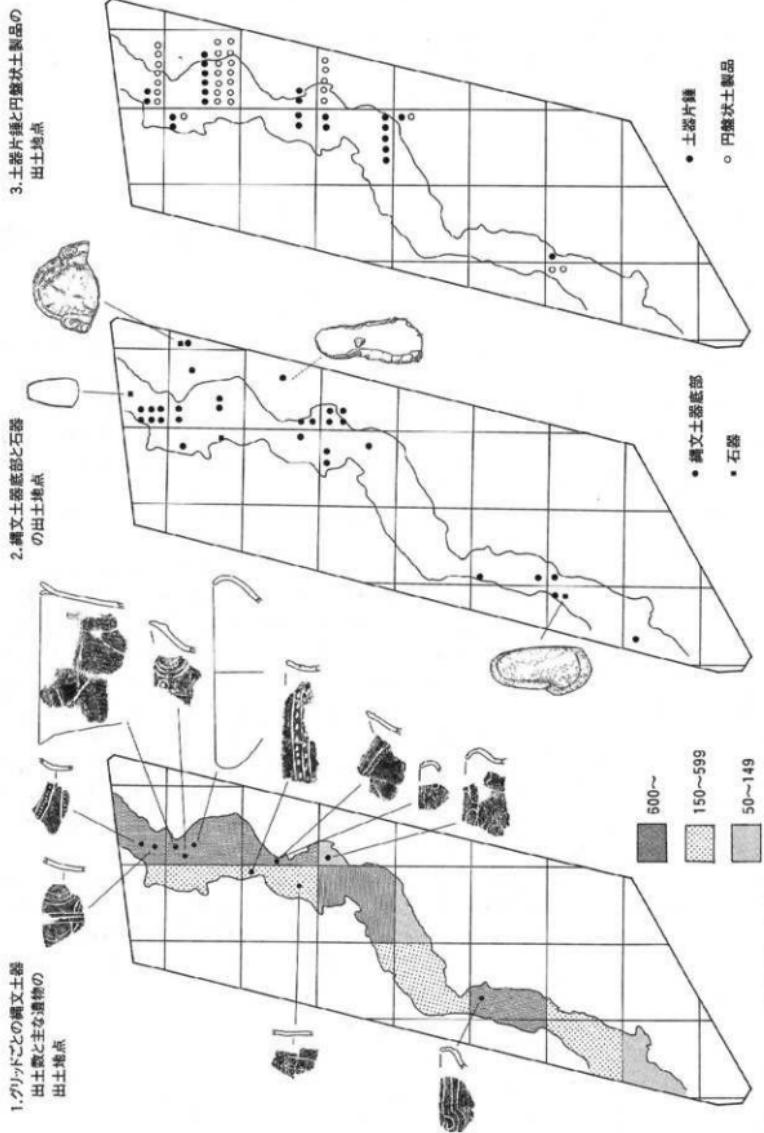
河川跡SD3は北側に隣接する針原西遺跡平成13年度調査のSD1と同一の河道と考えられる。周辺の遺跡で同時期の河道は検出されていない。

(2) 遺物

縄文土器は、大部分がSD 3の最下層に堆積した砂層中から出土したものである。北東部に分布する縄文時代の包含層〔Ⅲ層〕や中・近世の包含層〔Ⅱ層〕中からも極少量が出土している。最古期のものは、古代の河川跡である2号河道の覆土に混入した中期中葉後半の時期のものである。最も多量に出土したのはSD 3から出土した、中期末から後期前葉の時期の土器である。SD 3出土の縄文土器は縦帯上に刻み目を施した串田新式の趣のある土器が少量混在しているが、量的には直線的で太い沈線文を施した前田式土器と三角形のはっきりとした連続刺突文を施す気泡式土器、及び两者の中間的な様相の土器が多い。土器以外の出土遺物には土製品と石製品がある。土製品では耳飾が1点、その他に土器片錐と円盤状土製品が多く出土している。石製品では、磨製石斧や磨石、凹石、石皿といった生活用具が出土している。

第36図はSD 3出土遺物の分布状況を示したもので、第36図-1は土器全体の量を10mグリッドごとに表したものである。第36図-2は縄文土器の底部と石器だけを抜き出して位置概略を示したもの、第36図-3は土器片錐・円盤状土製品の出土地点を示したものである。これによれば土器の全体の出土は、南部ではX15Y10グリッド付近をピークとした分布密度の濃い地点が1か所あり、北部では全体に多く分布するものの、特に中央部のX25Y15グリッド付近、北東部のX35Y25グリッド付近に集中の傾向がある。土器底部の出土は、土器片の出土数の多いグリッドには底部も多く分布しており、各土器は底部片の沈む地点を中心に廃棄されたものと考えられる。北東部では右岸側の出土量が多く、中央部では左岸側の出土数が多い。石器は北東部での出土数がやや多い。土器片錐・円盤状土製品の分布は、全体に北東部に多く、土器片錐は中央部から北東部に、円盤状土製品は北東部に多い。円盤状土製品と土器片錐の分布に偏りが見られる点については、円盤状土製品を同時期の上器片錐の未製品と考えれば北東部に未製品の廃棄が多かったと考えられ、円盤状土製品を明瞭な土器片錐とは時期差のある上器片錐あるいは別の性格のものと考えれば分布の差はごくあたりまえのことである。

いずれにしても、縄文時代の遺物の分布は北方向へ向かって多くの傾向があり、遺跡は調査区を越えた北側に主体があるものと考えられる。本調査地区は、北側に延びる遺跡中心地の南縁辺部に当たり、土器片錐の出土から推測されるように海岸からほど近い低地帯の自然流路付近での生業の場の遺跡として位置付けられよう。



第36図 SD3出土遺物の概要

2 古代

(1) 遺構

SD2は検出された他の河道とは断面形状や深さなどに、明らかな違いが見られる。もともとあった自然河道を維持するために何回か底面を掘り下げている可能性がある。その存続期間は、流路が多少変化するが8世紀から中世までであり、その間断続的に続いていたと見てよいであろう。

SD2と同一の遺構と考えられるものは南接地域内では検出されていない。周辺遺跡での同時期の溝は、南に約300m離れた黒河・中老田遺跡A地区（平成12年度調査）で検出されたSD131であり、南北に流れる形で検出されている。同遺構の東側には粘土探柵坑群や上坑が検出されている。またこの遺跡の南側に隣接している黒河尺目遺跡A地区（平成12年度）では、倉庫群と考えられる掘立柱建物跡や堅穴状土坑が検出されている。これらの遺跡は標高6～8mの丘陵の裾部に立地しており、低湿地に立地する本遺跡と性格が違うものと考えてよいであろう。

(2) 遺物

奈良～平安時代の遺物が出土したSD2については、調査地区内で同時期の遺構が発見されていないことや中・近世の自然流路にも古代の上器が見られることなどから、調査地区的南側上流部のどこかに古代の遺物を包含する遺構があるものと推測される。遺物は8世紀前半から9世紀後半代の土師器・須恵器であり、須恵器は胎土からその大部分が射水丘陵の製品と考えられる。

3 中・近世

(1) 遺構

この時期の河遺跡の覆土はSD2の最上層も含め、腐植物を多く含む黒褐色土が主体である。流れの濁んだ河川に上流からの木材や周囲の低湿地性植物が佔めたものが流れ着いて溜まった結果、河川は埋もれたものと考えられる。

周囲の遺跡では、黒河尺目遺跡A地区から区画溝に伴う建物跡や井戸のある集落が検出されている。また本遺跡の北約2kmにある白石遺跡では鉢跡と考えられる遺構群が検出されている。

(2) 遺物

中世の珠洲と土師質土器、越中瀬戸がSD1・4・5から出土している。珠洲すり鉢は形状から中世の中頃と末頃の時期のものがある。越中瀬戸は16世紀末から17世紀前半のものである。古代の遺物と同様に調査地区内に河道以外の中世の遺構は検出されていないので中世の遺構は調査地区外にあるものと思われる。

参考文献

- イ 池野正雄・宮田進一・原田義範 1989 「黒河西山遺跡発掘調査報告」小杉町教育委員会
福垣尚美 1999 「HS-04遺跡発掘調査報告」小杉町教育委員会
ウ 上野章 1992 「戸破若宮遺跡発掘調査概要」小杉町教育委員会
上野章・原田義範 1991 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1990年度」小杉町教育委員会
上野章・原田義範 1992 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1991年度」小杉町教育委員会
上野章・原田義範 1992 「小杉町黒河尺目遺跡発掘調査概要」小杉町教育委員会
上野章・原田義範 1992 「小杉町白石遺跡発掘調査概要」小杉町教育委員会
上野章・原田義範・福垣尚美・桐谷優 1994 「小杉町針原東遺跡発掘調査報告」小杉町教育委員会
上野章・原田義範・桐谷優 1994 「小杉町白石遺跡発掘調査報告」小杉町教育委員会
上田尚美 2001 「土器製作の道具—黒川中田古遺跡出土資料の紹介—」『富山考古学研究—紀要第4号—』
財富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- キ 岸本雅敏・閔清 1987 「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(5) 黒河尺目遺跡」
富山県教育委員会
- コ 小島俊彰 2000 「前田式土器様式と岩崎野式土器様式の諸型式」『大境』第20・21号 富山考古学会
小島俊彰・邑本順亮・橋本正・藤田富士夫 1971 「小杉町中山南遺跡調査報告書」富山県教育委員会
小島俊彰・橋本正・邑本順亮 1971 「小杉町十三塚遺跡調査報告書」富山県教育委員会
小杉町教育委員会 1990 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1988・1989年度」
小杉町史編纂委員会 1997 「小杉町史 通史篇」小杉町
- セ 閔清・安念幹倫・大澤正己 1988 「都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(6) 黑河尺
目遺跡」富山県埋蔵文化財センター
- タ 武田健次郎 2000 「砺波・射水平野における遺跡群の展開」『富山考古学研究—紀要第3号—』
財富山県文化振興財团文化財調査事務所
- ト 富山県教育委員会 1970 「關山遺跡 小杉町關山遺跡緊急発掘調査報告書」富山県教育委員会
財富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2001 「埋蔵文化財年報(12) 平成12年度」
財富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- ナ 納谷守章・上野章・原田義範 1991 「小杉町中山中遺跡発掘調査概要」小杉町教育委員会
- ハ 原田義範 2000 「塚越貝塚遺跡、塙総No.15遺跡発掘調査概要」小杉町教育委員会
原田義範・福垣尚美 1992 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1991年度」
原田義範・福垣尚美 1993 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1992年度」
原田義範・福垣尚美 1994 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1993年度」
原田義範・福垣尚美 1997 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1996年度」
原田義範・福垣尚美 1998 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度」
原田義範・福垣尚美 1999 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度」
- マ 真脇遺跡発掘調査団 1986 「真脇遺跡」能都教育委員会 真脇遺跡発掘調査団
- ミ 三島道子・上田尚美・戸谷邦隆 2001 「IV 主要地方道小杉姫中線関連発掘調査」(財)富山県文化振興財团
埋蔵文化財調査事務所
- 三島道子 2001 「黒河尺目遺跡の豊穴状遺構について」『富山考古学研究—紀要第4号—』
財富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- ヨ 米澤義光 1996 「字ノ気町気屋遺跡」字ノ気町教育委員会
米澤義光 1997 「吉野谷の石器時代」吉野谷村教育委員会

表4 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(1)

| 遺物No | 出土地点 | 出土遺物 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等 (石器は石材と重畠) | 備考 |
|------|--------------|-------|------|----|--------|--------|--------|--------------------|-----|
| 1 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 10.5 | | 14.2 | 口縁～側部、隆帯、斜溝文 | 補修孔 |
| 2 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁～側部、隆帯上刻目、継位斜溝文 | |
| 3 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、隆帯上刻目 | |
| 4 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、隆帯、斜溝文 | |
| 5 | X31 Y18 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、平行沈線間連続刺突文、葉脈状文 | |
| 6 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、彌沈線文 | |
| 7 | X40 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線間刺突文 | |
| 8 | X39 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線間刺突文 | |
| 9 | X39 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線間刺突文 | |
| 10 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線間刺突文 | |
| 11 | X42 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、斜辟起線文 | |
| 12 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、斜辟起線文 | |
| 13 | X41 Y23 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、斜辟起線文 | |
| 14 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広沈線文 | |
| 15 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広沈線文 | |
| 16 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広沈線文 | |
| 17 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、押し引き状幅広沈線文2条 | |
| 18 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文 | |
| 19 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文 | |
| 20 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広沈線文 | |
| 21 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広沈線文 | |
| 22 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、沈線文 | |
| 23 | X30 Y15 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、沈線文 | |
| 24 | X42 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文、蛇行沈線文 | |
| 25 | X39 Y23 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.8 | | | 口縁～脇部、幅広沈線文、台形区画文 | |
| 26 | X37 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文、台形区画文 | |
| 27 | X37 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文、台形区画文 | |
| 28 | X37 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文、台形区画文 | |
| 29 | X39 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、平行沈線文区画内鉛垂文 | |
| 30 | X27 Y18 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 17.0 | | | 口縁部、平行沈線文 | |
| 31 | X39 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.0 | | | 口縁～脇部、継位沈線文 | |
| 32 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁～脇部、平行沈線文、継位沈線文 | |
| 33 | X39 Y21 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、継位沈線文 | |
| 34 | X41 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部、ブリッジ | |
| 35 | X39 Y23 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部、ブリッジ | |
| 36 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 壺 | | | | 口縁部、巴状沈線文 | |
| 37 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 壺 | | | | 口縁部、巴状沈線文 | |
| 38 | X30 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、沈線文 | |
| 39 | X19 Y12 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、J字状沈線文 | |
| 40 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、巴状沈線文 | |

表5 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(2)

| 番号 | 出土地点 | 出土遺構 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と重量) | 備考 |
|----|--------------|-------|------|----|--------|--------|--------|-----------------------|----|
| 41 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、巴状沈線文 | |
| 42 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幾何学文状沈線文 | |
| 43 | X26 Y18 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 口縁部、幾何学文状沈線文 | |
| 44 | X31 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 口縁部、巴状沈線文 | |
| 45 | | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文 | |
| 46 | X39 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、平行沈線文 | |
| 47 | X41 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 肩部、縦位沈線文、弧状沈線文 | |
| 48 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 肩部、山形状沈線文 | |
| 49 | X38 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 肩部、渦巻き状沈線文内包渦繩文 | |
| 50 | X39 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 肩部、渦巻き状沈線文内包渦繩文 | |
| 51 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、押し引き沈線文 | |
| 52 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、斜繩文、2条の幅広押し引き沈線文 | |
| 53 | X15 Y9 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、押し引き沈線文、波状沈線文 | |
| 54 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、縦方向に斜繩文、押し引き沈線文2条 | |
| 55 | X14 Y9 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、押し引き沈線文 | |
| 56 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 16.5 | | | 口縁部、波状沈線文2条、縦位斜繩文 | |
| 57 | X29 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条、縦位斜繩文 | |
| 58 | X27 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条、縦位斜繩文 | |
| 59 | X33 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 60 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 61 | X42 Y22 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 62 | X29 Y13 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条、縦位斜繩文 | |
| 63 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 64 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状口縁、波状沈線文、縦位斜繩文 | |
| 65 | X15 Y9 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条、縦位斜繩文 | |
| 66 | X31 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 肩部、波状沈線文2条 | |
| 67 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 68 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 69 | X15 Y9 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 70 | X27 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文2条 | |
| 71 | X40 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅広口縁による波状沈線文 | |
| 72 | X15 Y10 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文 | |
| 73 | X11 Y7 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文 | |
| 74 | X27 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文 | |
| 75 | X14 Y9 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文 | |
| 76 | X32 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文 | |
| 77 | X30 Y20 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、縦位斜沈線文 | |
| 78 | X26 Y18 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文3条 | |
| 79 | X25 Y18 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、二角形連続斜突文、口縁内面窓み穴 | |
| 80 | X27 Y19 グリット | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状口縁、口縁に孔 | |

表6 黒河・中老田遺跡出土遺物觀察表(3)

| 番号 | 出土地点 | 出土遺物 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と重量) | 備考 |
|-----|--------------|---------|------|----|--------|--------|--------|--------------------------------|----|
| 81 | X29 Y19 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状沈線文、口縁に環状突起 | |
| 82 | X33 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文、波状沈線文 | |
| 83 | X30 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文、波状沈線文 | |
| 84 | X42 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文、波状沈線文 | |
| 85 | X30 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文、波状沈線文 | |
| 86 | X40 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅狭い三角形連続刺突文3段 | |
| 87 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅狭い三角形連続刺突文2段 | |
| 88 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、幅狭い三角形連続刺突文2段 | |
| 89 | X30 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文2段 | |
| 90 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、輪抜い三角形連続刺突文 | |
| 91 | X40 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部に縄文、三角形連続刺突文1段 | |
| 92 | X36 Y20 グリッド | F S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口唇部、口唇部斜状具による圧痕、波状文、三角形連続刺突文3段 | |
| 93 | X29 Y13 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口縁上部に斜縄文、三角形連続刺突文3段 | |
| 94 | X24 Y18 グリッド | F S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文2段 | |
| 95 | X31 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文2段 | |
| 96 | X33 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文2段 | |
| 97 | X37 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部斜状具による圧痕、三角形連続刺突文3段 | |
| 98 | X20 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口唇部、円形凹文、長方形凹部直面文、三角形連続刺突文2段 | |
| 99 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文3段 | |
| 100 | X33 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文2段 | |
| 101 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文2段、斜縄文 | |
| 102 | X39 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、波状文、三角形連続刺突文 | |
| 103 | X39 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部斜状具による圧痕、三角形連続刺突文 | |
| 104 | X36 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、渦巻き文、三角形連続刺突文 | |
| 105 | X25 Y25 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文 | |
| 106 | X29 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部外曲靡み穴、三角形連続刺突文 | |
| 107 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文 | |
| 108 | X16 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文3段 | |
| 109 | X37 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 壺 | | | | 口縁部、三角形連続刺突文 | |
| 110 | X25 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部外圓靡み穴 | |
| 111 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部外圓靡み穴 | |
| 112 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部 | |
| 113 | X36 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、斜縄文 | |
| 114 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、斜縄文 | |
| 115 | X37 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、縫合位に斜縄文 | |
| 116 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、縫合位に斜縄文 | |
| 117 | X37 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部斜縄文、脇部縫合位に斜縄文 | |
| 118 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部斜縄文、脇部縫合位に斜縄文 | |
| 119 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 口縁部、口唇部斜縄文 | |

表7 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(4)

| 遺物番号 | 出土地点 | 出土遺構 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と兼用) | 備考 |
|------|--------------|-------|------|------|--------|--------|--------|------------------|----|
| 120 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、縦位斜縞文 | |
| 121 | X29 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、縦位斜縞文 | |
| 122 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、縦位斜縞文 | |
| 123 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、縦位斜縞文 | |
| 124 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 脇部、縦位斜縞文 | |
| 125 | X20 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.6 | | | 口縁部 | |
| 126 | X38 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | 30.0 | | | 口縁部～底部 | |
| 127 | X38 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部、低降帯による渦巻き文 | |
| 128 | X41 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部、側面状況窪文 | |
| 129 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 口縁部、斜縞文 | |
| 130 | X29 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 12.5 | | | 底部、側面底、脇部縦位沈窪文 | |
| 131 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 12.6 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 132 | X31 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 11.4 | | | 底部、脇部斜縞文 | |
| 133 | X30 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 14.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 134 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 135 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 136 | X25 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 137 | X28 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 10.7 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 138 | X20 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 11.5 | | | 底部、斜縞文 | |
| 139 | X27 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.0 | | | 底部、側面底 | |
| 140 | X33 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 10.8 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 141 | X8 Y7 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 142 | X27 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.8 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 143 | X15 Y9 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 144 | X15 Y12 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 145 | X32 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 8.5 | | | 底部、側面底 | |
| 146 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.5 | | | 底部、斜縞文 | |
| 147 | X30 Y18 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.6 | | | 底部、斜縞文 | |
| 148 | X15 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 8.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 149 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 8.8 | | | 底部、斜縞文 | |
| 150 | X30 Y17 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 8.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 151 | X16 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 8.8 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 152 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 9.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 153 | X15 Y10 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 12.0 | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 154 | X30 Y20 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 155 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 156 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、斜縞文 | |
| 157 | X40 Y22 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、斜縞文 | |
| 158 | X42 Y12 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 底部、側面底、脇部斜縞文 | |
| 159 | X41 Y23 グリッド | S D 3 | 縄文土器 | 筒付土器 | | | | 底部、弧状隆起縞文 | |

表8 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(5)

| 遺物No. | 出土地点 | 出土遺物 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と彫刻) | 備考 |
|-------|--------------|-------|------|--------|--------|--------|--------|------------------|----|
| 160 | X42 Y21 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 10.2 | | 底部、低高台 | |
| 161 | X46 Y23 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 9.8 | | 底部、斜繩文 | |
| 162 | X30 Y30 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 10.8 | | 底部、網代痕 | |
| 163 | X40 Y30 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 6.4 | | 底部 | |
| 164 | X30 Y25 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 7.7 | | 底部 | |
| 165 | X14 Y9 グリッド | S D 3 | 繩文土器 | 浅鉢 | | 14.8 | | 邢台部 | |
| 166 | X18 Y12 グリッド | S D 3 | 土製品 | 耳皿 | 外径3.2 | 内径1.6 | 1.4 | | |
| 167 | X30 Y30 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | 幅7.3 | | 厚0.7 | | |
| 168 | X31 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚1.1 | | |
| 169 | X41 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | 長7.2 | 厚0.7 | | |
| 170 | X44 Y9 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | 長7.4 | 厚0.6 | | |
| 171 | X39 Y20 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | 幅7.0 | | 厚0.8 | | |
| 172 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 173 | X30 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | 幅5.0 | 長6.1 | 厚0.9 | | |
| 174 | X40 Y30 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.9 | | |
| 175 | X31 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 176 | X31 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 177 | X40 Y30 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.6 | | |
| 178 | X39 Y20 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 179 | X27 Y19 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.6 | | |
| 180 | X36 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 181 | X36 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.6 | | |
| 182 | X40 Y19 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.8 | | |
| 183 | X36 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 184 | X36 Y18 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.9 | | |
| 185 | X25 Y19 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 186 | X27 Y27 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.4 | | |
| 187 | X27 Y19 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.7 | | |
| 188 | X15 Y19 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | | | 厚0.6 | | |
| 189 | X40 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 土器片縫 | 幅4.1 | 長5.2 | 厚0.7 | | |
| 190 | X14 Y9 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | 幅9.0 | | 厚0.7 | | |
| 191 | X29 Y23 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.9 | | |
| 192 | X40 Y24 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | 幅6.6 | 長6.8 | 厚0.7 | | |
| 193 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | 長7.4 | 厚0.7 | | |
| 194 | X37 Y30 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.7 | | |
| 195 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 196 | X39 Y23 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | 幅5.8 | 長5.7 | 厚0.7 | | |
| 197 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | 長5.9 | 厚0.6 | | |
| 198 | X37 Y21 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | | 長6.5 | 厚0.7 | | |
| 199 | X42 Y22 グリッド | S D 3 | 土製品 | 円盤状土製品 | 幅5.7 | | 厚0.8 | | |

表9 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(6)

| 順番 | 出土地点 | 出土遺物 | 種別 | 器種 | 寸法(cm) | 底径(cm) | 厚さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と変質) | 備考 |
|-----|---------------------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|------------------|-----------|
| 200 | X40 Y30 グリット | S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 201 | X39 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.8 | 長5.1 | 厚0.7 | | |
| 202 | X38 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅6.5 | | 厚0.8 | | |
| 203 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅6.9 | | 厚0.7 | | |
| 204 | X36 Y20 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | 長7.0 | 厚1.1 | | |
| 205 | X42 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | 長5.3 | 厚0.5 | | |
| 206 | X36 Y18 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 207 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.5 | | |
| 208 | X36 Y20 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | 長6.1 | 厚0.8 | | |
| 209 | X36 Y20 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.3 | 長6.3 | 厚0.7 | | |
| 210 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅5.2 | 長6.0 | 厚0.7 | | |
| 211 | X40 Y19 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.7 | 長6.0 | 厚0.9 | | |
| 212 | X36 Y30 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | 長6.5 | 厚0.7 | | |
| 213 | X41 Y23 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.3 | 長5.5 | 厚0.9 | | |
| 214 | X42 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 215 | X38 Y19 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.0 | 長5.8 | 厚0.7 | | |
| 216 | X25 Y18 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.7 | | |
| 217 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.5 | | |
| 218 | X36 Y20 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | 幅4.3 | 長5.5 | 厚0.7 | | |
| 219 | X40 Y20 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.9 | | |
| 220 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.9 | | |
| 221 | X40 Y19 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | 長5.1 | 厚0.7 | | |
| 222 | X37 Y21 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.4 | | |
| 223 | X42 Y22 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 224 | X37 Y22 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.8 | | |
| 225 | X14 Y9 グリット | F S D 3 | 土 製 品 | 円盤状土製品 | | | 厚0.7 | | |
| 226 | X48 Y23 グリット | F S D 3 | 石 器 | 磨製石斧 | 幅4.9 | 長8.4 | 厚1.8 | 凝灰岩 | |
| 227 | X25 Y25 グリット | F S D 3 | 石 器 | 打製石器 | 幅7.8 | 長17.5 | 厚3.3 | 446.5 g、砂質凝灰岩 | |
| 228 | X14 Y9 グリット | F S D 3 | 石 器 | 敲 石 | 幅4.5 | 長8.4 | 厚2.5 | 147.0 g、砂岩 | |
| 229 | X38 Y12 グリット | F S D 3 | 石 器 | 敲 石 | 幅5.2 | 長10.0 | 厚2.9 | 160.0 g、礫質砂岩 | |
| 230 | X37 Y19 グリット | F S D 3 | 石 器 | 凹 石 | 幅6.6 | 長12.5 | 厚4.7 | 390.0 g、凝灰岩質砂岩 | 凹穴(表4、表3) |
| 231 | X37 Y19 グリット | F S D 3 | 石 器 | 崩 石 | 幅7.2 | 長15.6 | 厚5.7 | 1.17kg、砂岩 | 長辺側面の1面使用 |
| 232 | X29 Y20 グリット | F S D 3 | 石 器 | 崩 石 | 幅1.8 | 長24 | 厚0.35 | 1.4 g | |
| 233 | X38 Y25 グリット(包含着石器) | F S D 3 | 石 器 | 崩 石 | 幅15.0 | | 厚2.6 | 578.0 g、凝灰岩 | |
| 234 | X42 Y24 グリット(包含着石器) | F S D 3 | 縄文土器 | 深 茹 | | 8.5 | | 底部 | |
| 235 | X15 Y10 グリット(包含着石器) | F S D 3 | 縄文土器 | 深 茹 | | 14.0 | | 底部、縄文底、崩部斜縫文 | |
| 236 | X38 Y16 グリット | F S K 7 | 縄文土器 | 深 茹 | | | | 口縫部、崩部 | |
| 237 | X38 Y15 グリット | F S D 2 | 須 忠 器 | 杯 B | 14.2 | 9.0 | 4.4 | | |
| 238 | X38 Y15 グリット | F S D 2 | 須 忠 器 | 杯 B | 11.6 | 6.1 | 3.4 | | |
| 239 | X20 Y20 グリット | F S D 2 | 須 忠 器 | 杯 B | 12.2 | 8.9 | 3.5 | | |

表10 黒河・中老田遺跡出土遺物観察表(7)

| 番号 | 出土地点 | 出土遺構 | 種 別 | 器 形 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等(石器は石材と重量) | 備 考 |
|-----|--------------|----------|-------|------|--------|--------|--------|------------------------|-------|
| 240 | X35 Y51 グリット | S D 2 | 須恵器 | 杯 B | | 9.0 | 3.0 | | |
| 241 | X30 Y20 グリット | S D 2 | 須恵器 | 杯 B | 13.0 | 8.8 | 6.9 | | |
| 242 | X35 Y15 グリット | S D 2 | 須恵器 | 杯 B | 15.2 | 8.6 | 7.6 | | |
| 243 | X35 Y10 グリット | S D 2 | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | | |
| 244 | X35 Y10 グリット | S D 2 | 須恵器 | 甕 | (21.5) | | | | |
| 245 | X35 Y20 グリット | S D 2 | 須恵器 | 甕 | | | | | |
| 246 | X30 Y20 グリット | S D 2 | 須恵器 | 横 瓶 | | | | | |
| 247 | X35 Y15 グリット | S D 2 | 須恵器 | 横 瓶 | | | | | |
| 248 | X30 Y15 グリット | S D 2 | 須恵器 | 横 瓶 | | | | | |
| 249 | X35 Y15 グリット | S D 2 | 須恵器 | 横 瓶 | | | | | |
| 250 | X35 Y15 グリット | S D 2 | 土 鍋 器 | 椀 | 14.0 | | 4.4 | | 外面赤彩 |
| 251 | X35 Y10 グリット | S D 2 | 土 鍋 器 | 小型甕 | | 5.5 | | | |
| 252 | X30 Y30 グリット | S D 2 | 繩文土器 | 深 鉢 | | | | 口縁部、2本単位の巻上縁、三角形穴吹貼り付け | |
| 253 | X30 Y20 グリット | S D 2 | 繩文土器 | 深 鉢 | | | | 側脚、沈線間に刻み | |
| 254 | X30 Y20 グリット | S D 2 | 繩文土器 | 深 鉢 | | | | 口縁部、半斜竹筋による半隆起縁文 | |
| 255 | X35 Y20 グリット | S D 2 | 木 製 品 | 柱 状 | 幅20.0 | 長65.0 | | 地下埋設部に鉛錠3カ所 | 丸太材 |
| 256 | X35 Y15 グリット | S D 2 | 木 製 品 | 板 材 | 幅102 | 長118.0 | 厚12.0 | 板目 | |
| 257 | | S D 2 | 木 製 品 | 曲物底板 | 径20.0 | | 厚0.9 | | |
| 258 | X42 Y20 グリット | S D 1 | 土 鍋 器 | 椀 | 12.5 | | | | |
| 259 | X42 Y20 グリット | S D 1 | 越中織戸 | 椀 | | 4.9 | | | |
| 260 | X42 Y21 グリット | S D 1 | 猪牛土器? | 甕 | | | | | |
| 261 | X15 Y20 グリット | S D 1 | 土耕賃土器 | 小 盆 | (9.0) | | | | |
| 262 | X15 Y10 グリット | S D 4 | 土耕賃土器 | 小 盆 | (10.0) | | | | |
| 263 | X10 Y10 グリット | S D 4 | 珠 洲 | すり鉢 | | | | | |
| 264 | X25 Y25 グリット | S D 4 | 須恵器 | 杯 B | | (7.8) | | | |
| 265 | X10 Y5 グリット | S D 4 | 須恵器 | 甕 | | | | | |
| 266 | X30 Y22 グリット | S D 4 | 須恵器 | 長頸瓶 | 9.4 | | | | |
| 267 | X30 Y30 グリット | S D 3 | 土 鍋 器 | 椀 | (14.3) | | | | |
| 268 | X15 Y10 グリット | S D 3 | 発生土器? | 甕 | | 5.0 | | 底部 | |
| 269 | X30 Y10 グリット | S D 4 | 木 製 品 | 分割材 | 幅100 | 長154.0 | 厚8.0 | | ミカン削り |
| 270 | X30 Y20 グリット | S D 5 | 須恵器 | 杯 B | | 8.0 | | | |
| 271 | X30 Y20 グリット | S D 5 | 土 鍋 器 | 小型甕 | (16.0) | | | | |
| 272 | X30 Y20 グリット | S D 5 | 土 鍋 器 | 小型甕 | | | | | |
| 273 | X35 Y10 グリット | (金管(玉器)) | 青 瓶 | 甕 | (12.6) | | | | |
| 274 | X35 Y15 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | すり鉢 | (30.0) | | | | |
| 275 | X40 Y10 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | すり鉢 | (24.0) | | | | |
| 276 | X35 Y10 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | すり鉢 | (33.0) | | | | |
| 277 | X35 Y20 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | すり鉢 | (31.0) | | | | |
| 278 | X35 Y10 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | 甕 | (12.0) | | | | |
| 279 | X25 Y10 グリット | (金管(玉器)) | 珠 洲 | すり鉢 | | | | | |

表11 黒河・中老田跡出土遺物観察表(8)

| 遺物No. | 出土地点 | 出土品種 | 種 別 | 器 形 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高さ(cm) | 部位、文様等 (石器は石材と重量) | 備 考 |
|-------|--------------|---------|------|-----|--------|--------|--------|--------------------------|-----|
| 280 | X10 Y15 グリッド | 金合板(木製) | 珠 | 泡 | すり鉢 | (36.4) | | | |
| 281 | X25 Y10 グリッド | 金合板(木製) | 陶 | 器 | 碗 | 10.0 | 4.9 | 5.2 | |
| 282 | | 金合板(木製) | 越中繩文 | 碗 | | 4.8 | | | |
| 283 | X30 Y20 グリッド | 金合板(木製) | 越中繩文 | 口 | 碗 | | 5.0 | | |
| 284 | X25 Y15 グリッド | レンチ内 | 近世繩文 | 壺 | | 12.2 | | | |
| 285 | X40 Y25 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 杯 A | 6.6 | | |
| 286 | X35 Y10 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 蓋 | | | |
| 287 | X30 Y20 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 杯 B | (8.3) | | |
| 288 | X35 Y25 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 杯 B | 8.8 | | |
| 289 | X15 Y15 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 杯 B | (6.4) | | |
| 290 | X30 Y10 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 杯 B | (12.4) | (8.6) | 6.1 |
| 291 | X15 Y15 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 壺 | | | |
| 292 | X35 Y20 グリッド | 金合板(木製) | 須 | 底 | 器 | 壺 | | | |
| 293 | X40 Y20 グリッド | 金合板(木製) | 土 | 印 | 器 | 壺 | (25.0) | | |
| 294 | X30 Y15 グリッド | 金合板(木製) | 上 | 印 | 器 | 小型 壺 | 14.8 | | |
| 295 | X45 Y25 グリッド | 金合板(木製) | 石 | 器 | 右 | 皿 | 幅7.8 | 厚3.0 297.0 g、凝灰岩 | |
| 296 | X30 Y20 グリッド | 金合板(木製) | 石 | 器 | 右 | 棒 | 幅13.4 | 厚10.5 1527.0 g、ディサイト質凝灰岩 | |
| 297 | S D 1 | 炭化種子 | 胡 | 桃 | | | | | |
| 298 | S D 1 | 炭化種子 | 胡 | 桃 | | | | | |
| 299 | S D 1 | 炭化種子 | 胡 | 桃 | | | | | |

報告書抄録

| ふりがな 書名 | くろかわ・なかおひだいきさとゆくくつらうけ調査報告 | | | | | | | |
|---------------|--------------------------------------|-------|------|-------------------|-------------------------------|---------------------------|------------------------|--|
| 著者名 | 主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業(B)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 | | | | | | | |
| 編著者名 | 福垣尚美 土生朗治 小村正之 | | | | | | | |
| 編集機関 | 山武考古学研究所 TEL 0476-24-0536 | | | | | | | |
| 発行機関 | 小杉町教育委員会 TEL 0766-56-1511 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2002年2月28日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | コ ー ド | | 北 緯 | 東 経 | 調査期間 | 調査 面積m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | ° | ° | | | |
| 黒河・ 中老田 | 富山県射水郡 小杉町黒河 | 16381 | 043 | 36° 42° 24° | 137° 7° 9° | 2001.07.02～ 2001.11.26 | 2,500 | 主要地方道小杉婦 中線臨時道路交付 金事業に伴う本調 査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 黒河・ 中老田 | 散布地 | 縄文時代 | | 河川跡 1条 土 坑 2基 | 縄文土器 土製品 石器 | | | 縄文時代中期後葉以降 の河川跡が検出されて おり、流路の変遷を追 える遺跡である。 |
| | | 古 代 | | 溝 1条 | 土師器・須恵器 | | | |
| | | 中・近世 | | 河川跡 4条 | 珠洲・越中漁戸・木 製品(曲げ物の底板 ・板) | | | |

写 真 図 版

図版 1

調査前



1. 調査前近景（北から）



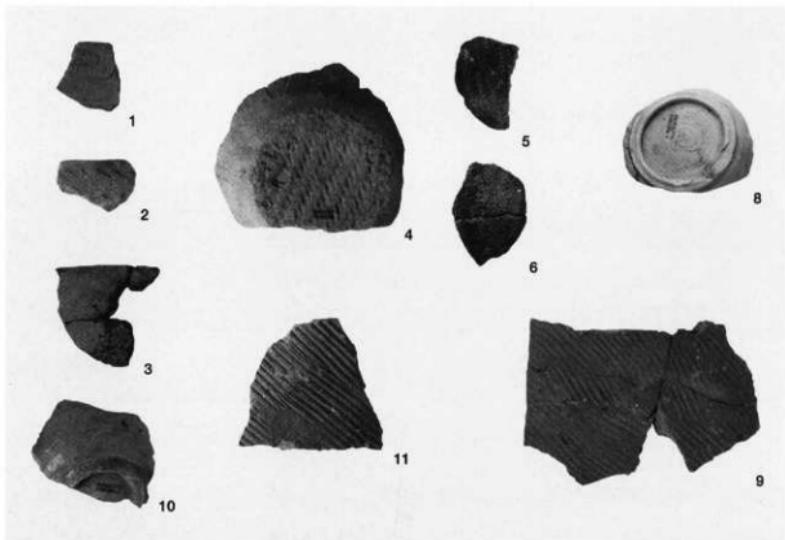
2. 調査前近景（南西から）

図版 2

試掘調査



1. 試掘調査状況（東から）



2. 試掘調査出土遺物

図版 3

全景
(縄文時代)



1. 縄文時代遺構完掘全景（上が北）

図版 4

遺構
(縄文時代)



1. SD 3 (北から)



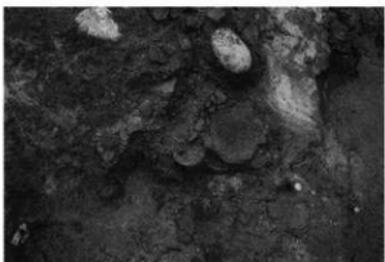
2. SD 3 (南西から)

図版 5

遺構
(縄文時代)



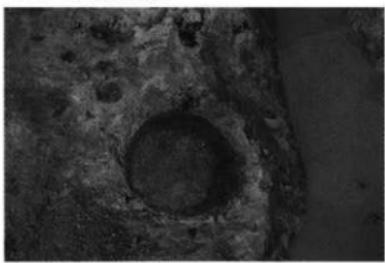
1. SD 3 土層（南から）



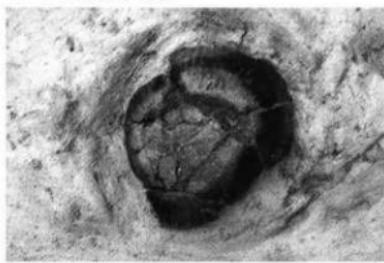
2. SD 3 遺物出土状況



3. SD 3 遺物出土状況



4. SD 3 遺物出土状況



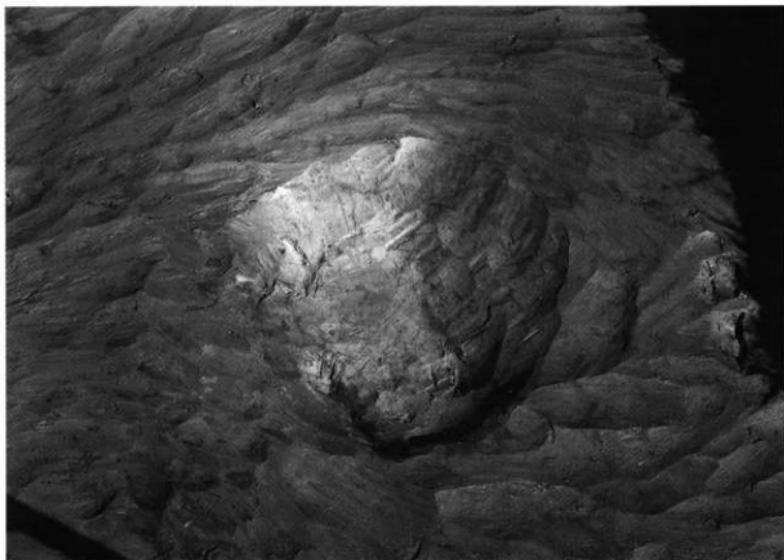
5. SD 3 遺物出土状況

図版 6

遺構
(縄文時代)



1. SK 7 (西から)



2. SK 8 (南から)

図版 7

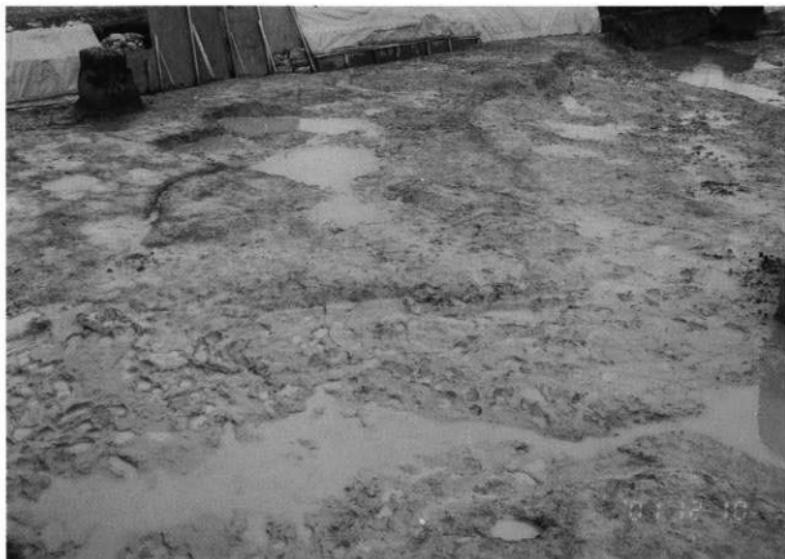
全景(古代～中・近世)



1. 古代～中・近世遺構完掘全景（上が北）

図版 8

遺構（古代～中・近世）



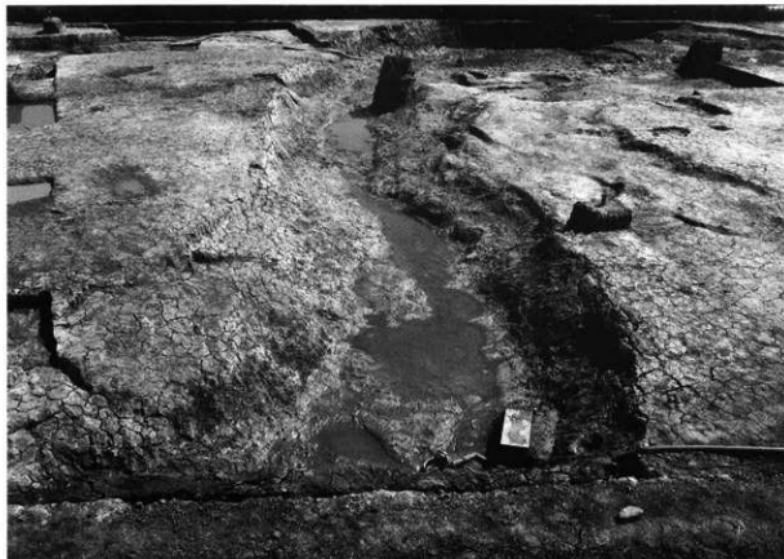
1. SD 1 (北西から)



2. SD 1 土層 (西から)



1. SD 2 (東から)



2. SD 2 (西から)

図版10

遺構
(古代・中・近世)



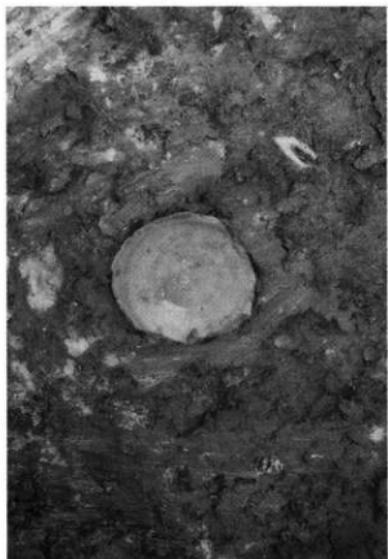
1. SD 2 土層（東から）



2. SD 2 土層（東から）

図版11

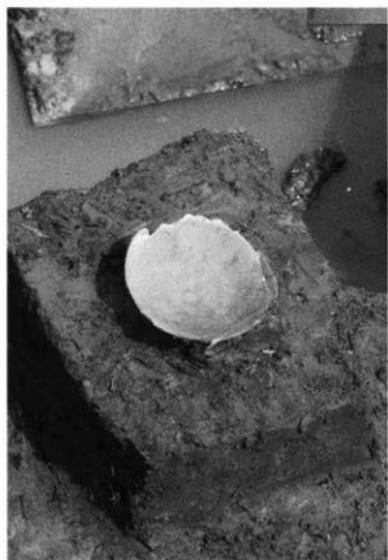
遺構(古代～中・近世)



1. SD 2 遺物出土状況



2. SD 2 遺物出土状況



3. SD 2 遺物出土状況



4. SD 2 遺物出土状況

図版12

遺構（古代～中・近世）



1. SD 4 (北東から)



2. SD 4 (南西から)



1. SD 4 土層（南から）



2. SD 4 遺物出土状況

図版14

遺構（古代～中・近世）



1. SD 5 (北から)



2. SD 5 土層 (西から)

図版15

遺構（古代・中・近世）



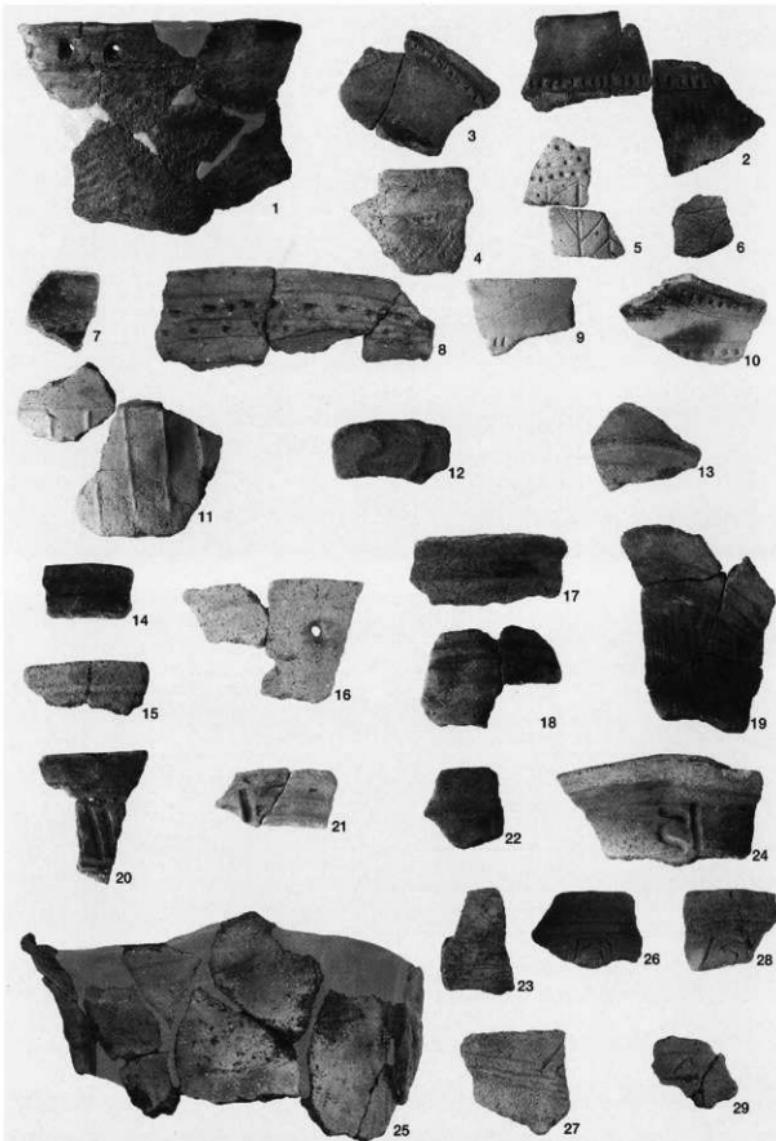
1. SD 6 (北から)



2. SD 6 土層 (東から)

図版16

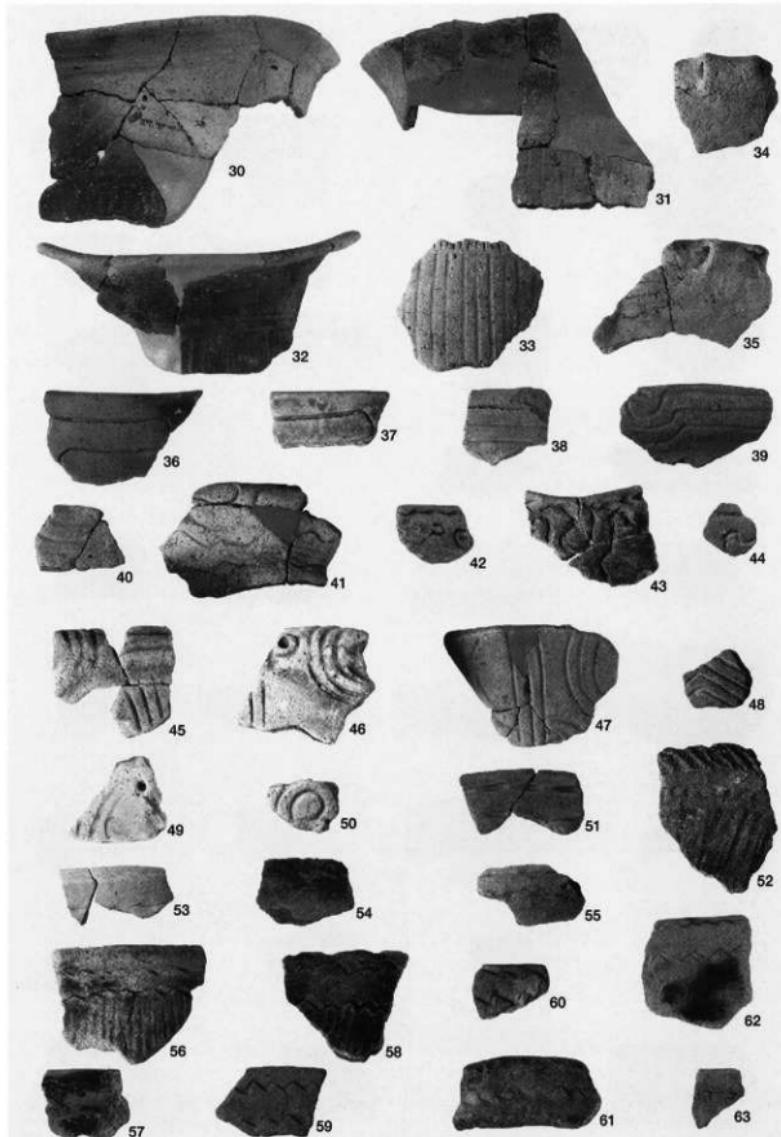
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(1)

図版17

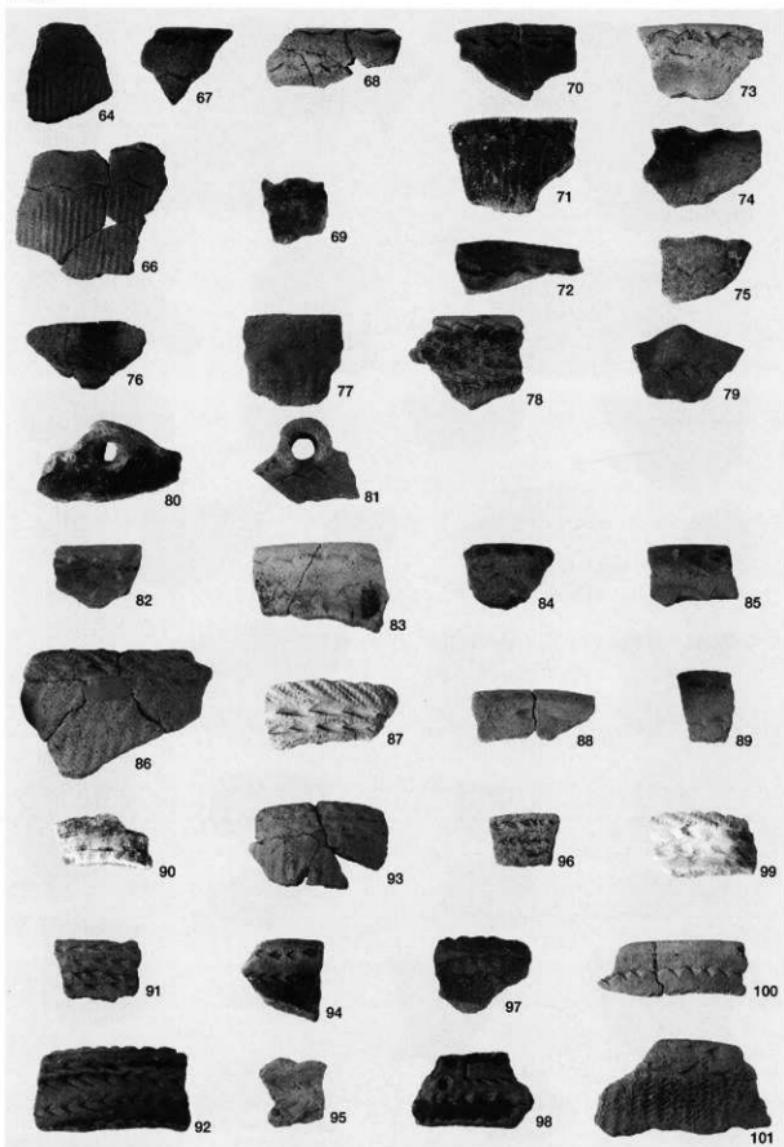
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(2)

図版18

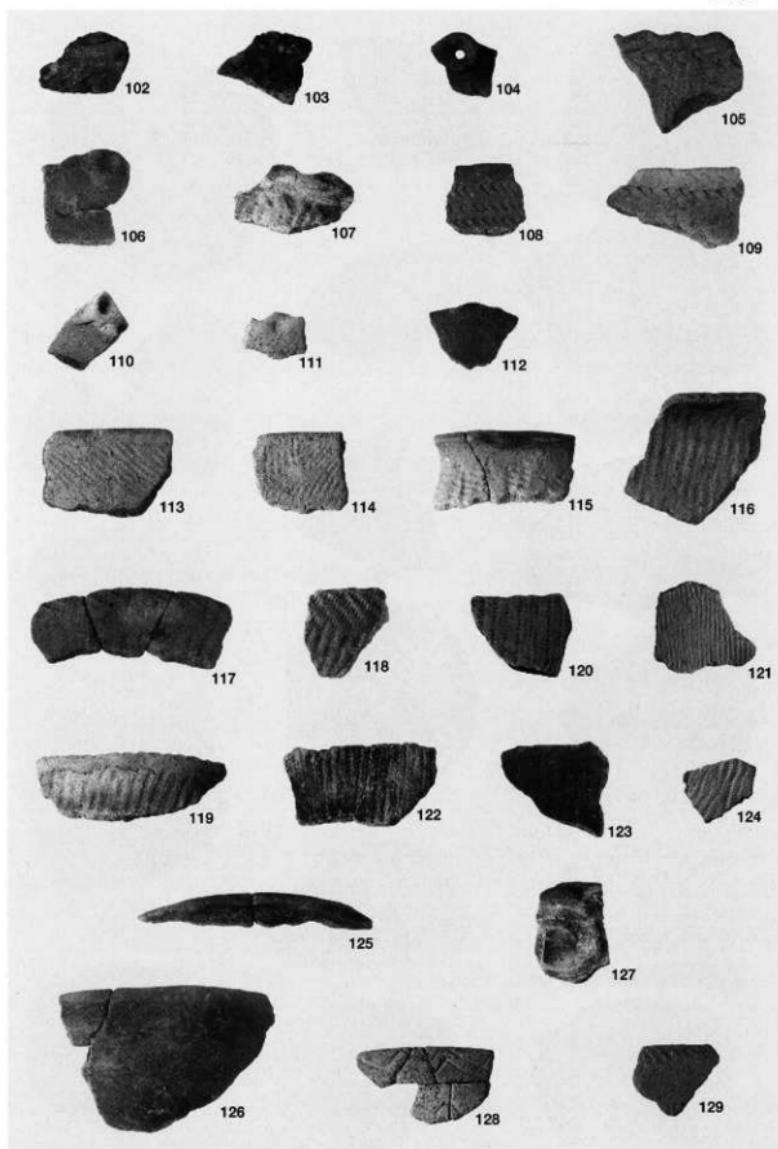
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(3)

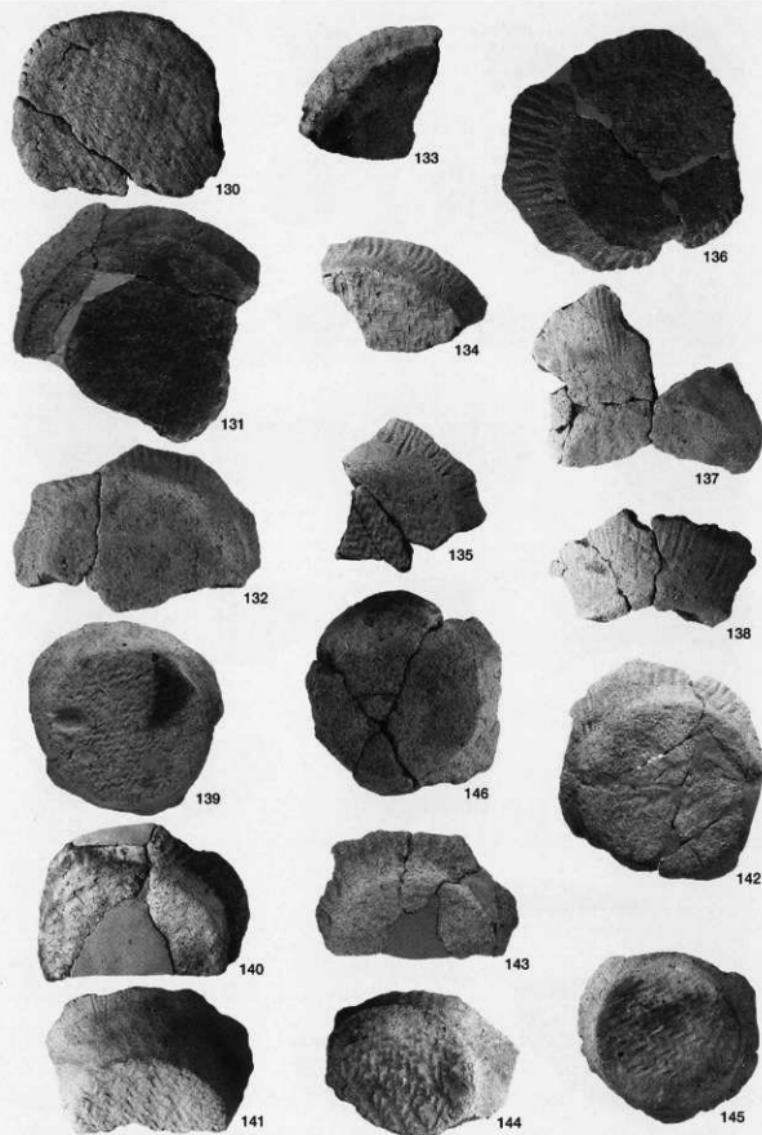
図版19

遺物
(縄文時代)



図版20

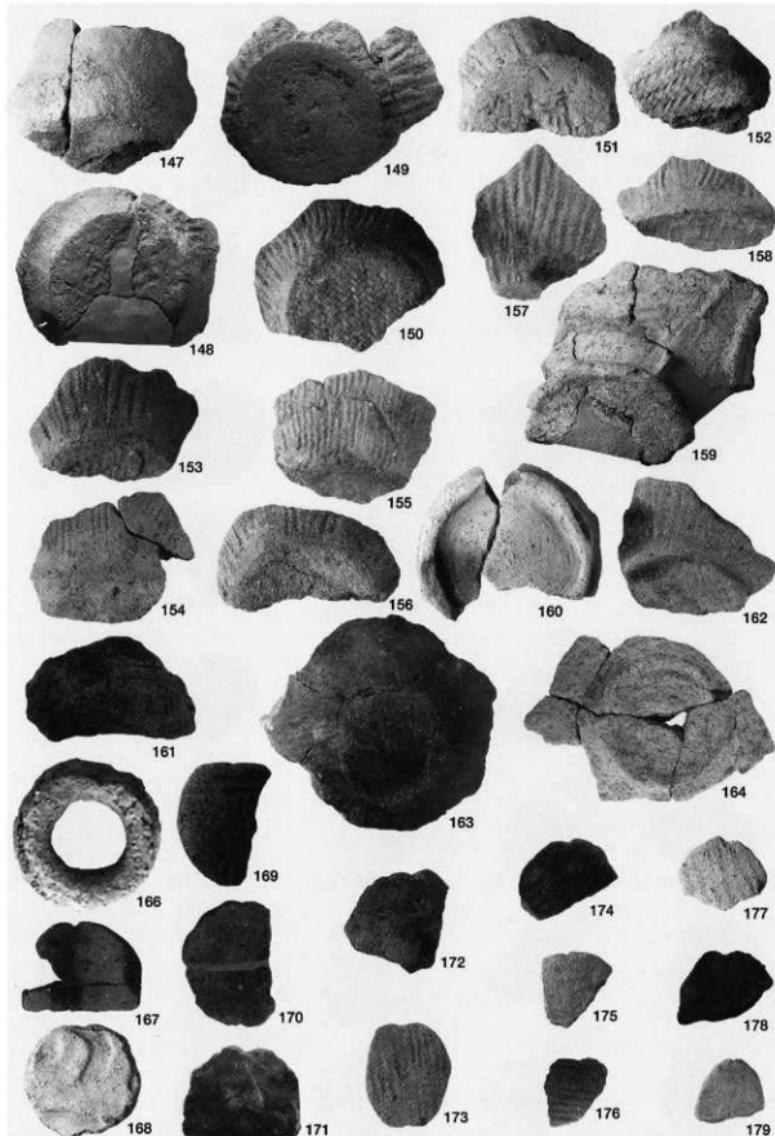
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(5)

図版21

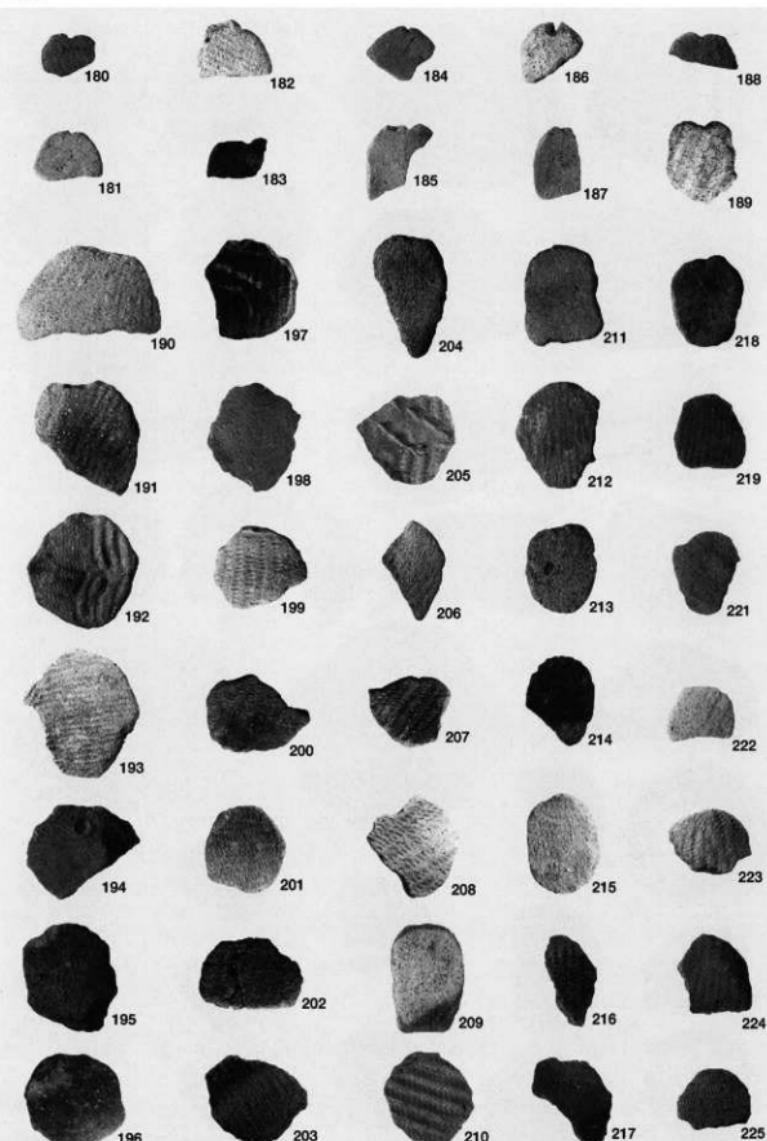
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(6)

図版22

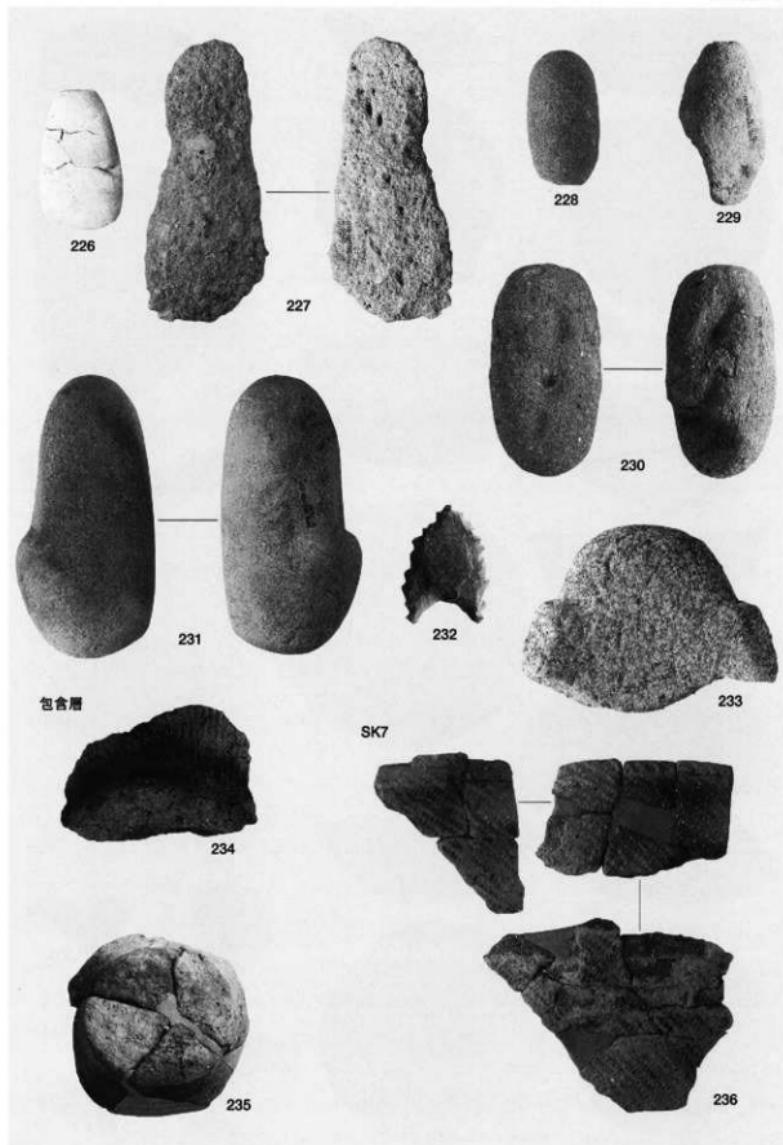
遺物
(縄文時代)



SD 3 出土遺物(7)

図版23

遺物（縄文時代）



SD 3・SK 7・包含層（Ⅲ層）出土遺物

図版24

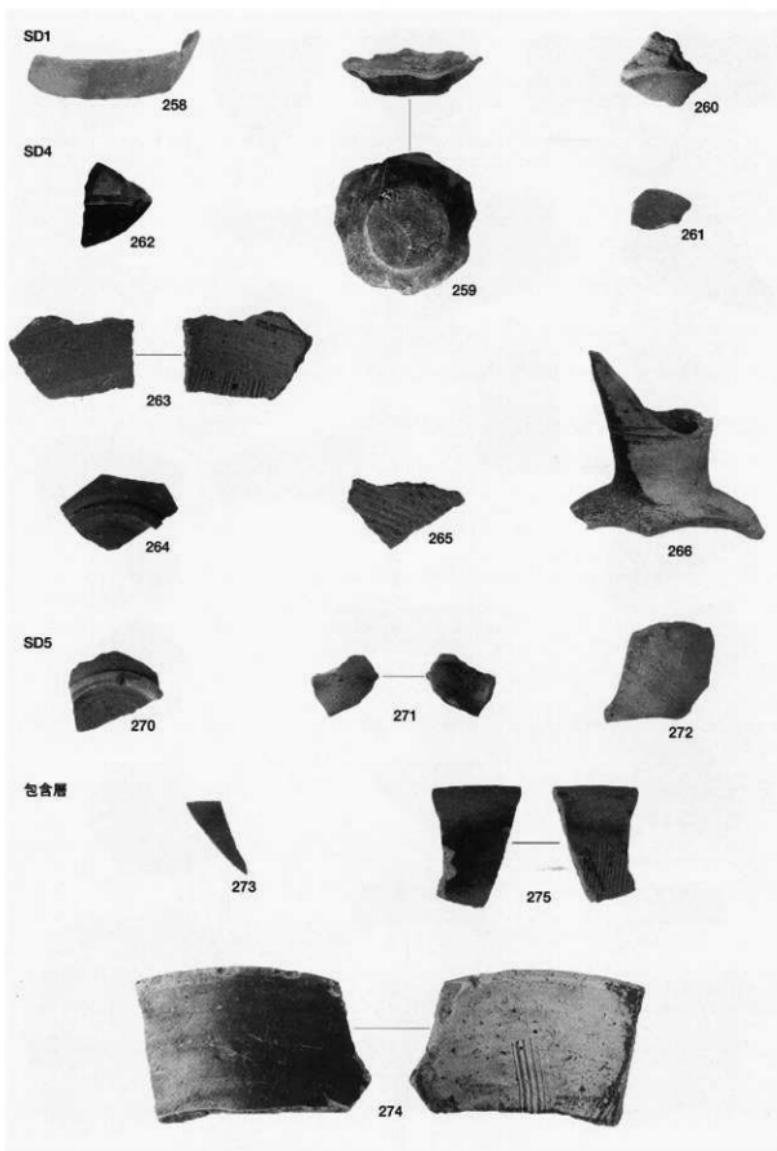
遺物
(古代～中・近世)



SD 2 出土遺物

図版25

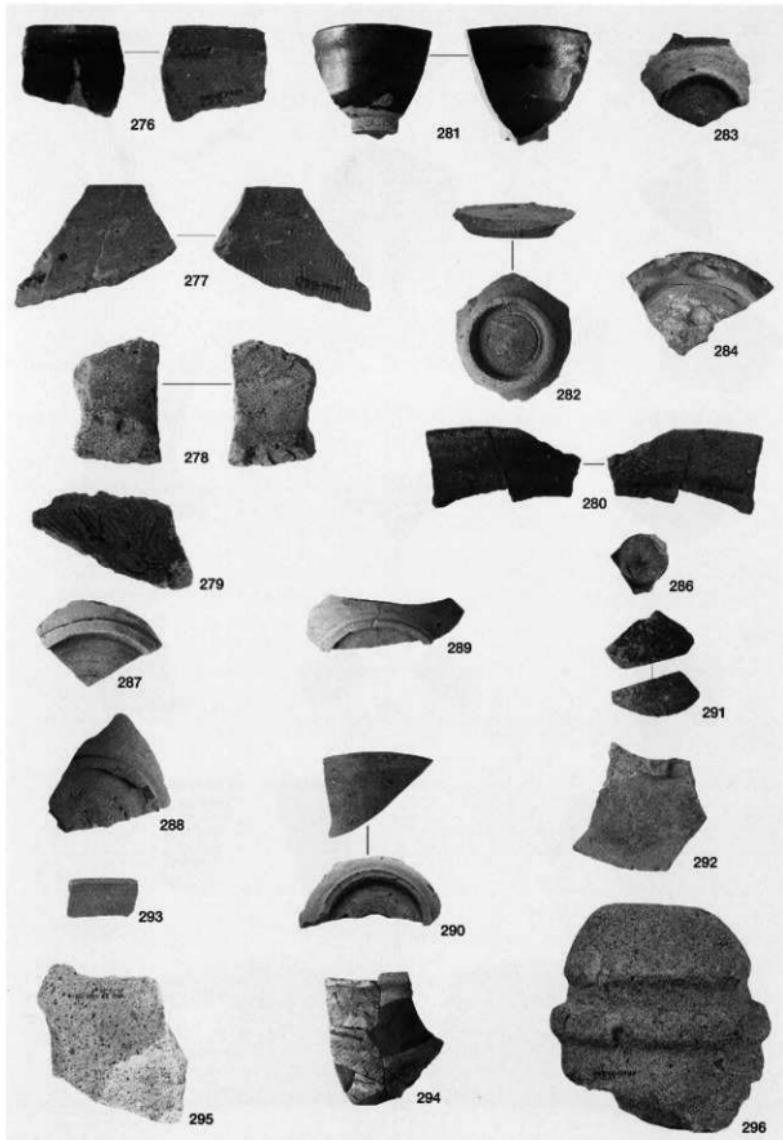
遺物（古代・中・近世）



SD 1・4・5・包含層（II層）出土遺物

図版26

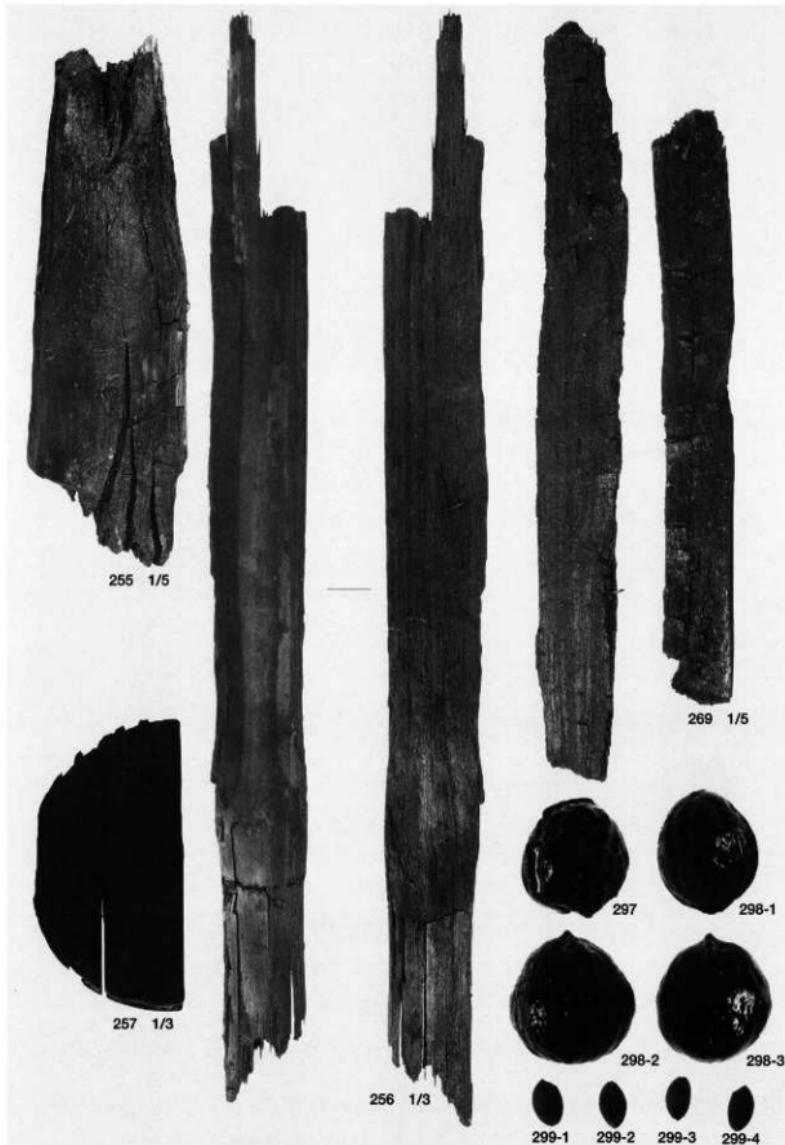
遺物
(古代・中・近世)



包含層(Ⅱ層)出土遺物

図版27

遺物(古代・中・近世)



平成14年2月28日 発行

黒河・中老田遺跡発掘調査報告

-主要道小杉線中継羅時道路交付金事業(BN)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-

編集 山武考古学研究所

〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地
TEL 0476-24-0536

発行 小杉町教育委員会

〒939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511
TEL 0766-56-1511

編集 株式会社 文化総合企画

〒286-0201 千葉県印旛郡富里町日吉台1-23-12
TEL 0476-93-0593

